



## 目次

新入生へのメッセージ～大阪薬科大学の6年制新教育制度と現状～	学長	栗原拓史	1
就任の挨拶	臨床実践薬学研究室 教授	荒川行生	2
就任の挨拶	臨床実践薬学研究室 講師	恩田光子	2
就任の挨拶	臨床薬劑学教室 助教授	井尻好雄	2
退職にあたって		松村瑛子	3
松村瑛子教授ご退職に寄せて	生命薬科学研究室 講師	坂口実	3
退職の挨拶		赤木昌夫	4
赤木昌夫教授ご退職に寄せて	機能分子創製化学研究室 教授	浦田秀仁	4
平成17年度後期授業・実習評価アンケート	教務部長	松村靖夫	5
平成17年度進路・就職状況について	就職部長	田中一彦	7
新入生交流・導入教育	学生部長	木村捷二郎	9
学生相談室からのメッセージ	学生相談室相談員	岡鈴佳	9
第91回薬剤師国家試験の結果と本年度薬学総合演習の対策について	薬剤師国家試験対策委員長	藤田芳一	10
平成18年度公開教育講座	公開教育講座委員長	掛見正郎	11
平成18年度市民講座	市民講座委員長	馬場きみ江	11
大型機器設置	研究委員長	辻坊裕	12
薬学共用試験CBTについて	CBT担当委員	土井光暢	13
OSCEとは	臨床実践薬学研究室 教授	荒川行生	14
OSCE体験談	4年次生	南部裕美	15
OSCE体験談	4年次生	木村敬子	15
IC学生証の導入と学生サービスの向上を期待して	情報化推進副委員長	土井光暢	16
環境整備事業	環境保全委員長	木村捷二郎	17
海外留学報告	生薬科学教室 講師	谷口雅彦	18
私立大学経営と事務職員～大学職員にも経営を担う力を～	事務局長	肥塚敏彰	20
平成17年度学校法人決算及び平成18年度学校法人予算	事務局長	肥塚敏彰	21
事務局だより			23
教員研究業績（2005年）			36
薬用植物の紹介（アンズ）	薬用植物園長	馬場きみ江	

## 新入生へのメッセージ～大阪薬科大学の6年制新教育制度と現状～

学長 栗原 拓史



アプローチに映える櫛の柔らかな緑と阿武山から聞こえる鶯の囀りに迎えられるながら、新入生の皆さんはすっかり落ち着きを取り戻し、大阪薬科大学生としての日々充実した学生生活を送っていることでしょうか。ゴールデンウィーク、新入生歓迎の五月祭も終わりました。さあ！6年制元年の薬学生としての誇りと自信を意識しながら、何事にも「熱く、積極的に挑戦する姿勢」を持ち続けましょう。

『天は人に幸福も不幸も与えはしない。ただ、その種と材料を与えるだけ』というフランスの哲学者モンテーニュの言葉どおり、運命は自分で切り拓くものです。このキャンパスに、歩をしっかりと踏みしめながら。

### 創立102年の歴史

明治の初期、外国文化の導入により国内の文明文化の著しい発展の中にあって、薬業界のみが取り残された感があったことに心を痛めた当時の大阪衛生試験所長の平山松治博士は部下の秋山卓彌氏らとともに、現在なお製薬企業が多く集中する大阪道修町に大阪道修薬学校を設立されたのが、我が大阪薬科大学の母体です。正式に認可を受けたのが1904年5月9日で、この日が創立記念日として受け継がれています。その後、100年に及ぶ歴史の中で大きな教育・研究実績を残すとともに、数多くの優れた人材を薬学関連領域に送り出してきました。現在も第一線でご活躍中の方も含め、14,000人を超える心強い先輩方が皆さんを心温かく迎えてくださっていることでしょうか。

### 新たな6年制教育体制

皆さんは、日本の薬学教育が歴史的な改革を迎えた6年制元年の入学生です。進路を決めるに当たり、制度上のことが十分に理解できず、先輩たちとは違った意味での不安、戸惑いで悩んだこともあったことでしょうか。本学の教育体制は、6年制課程の薬学科生と、4年制課程の薬科学科生が、入学時には同じ薬学部生として同時スタートし、4年次進級時に自分の意思で学科選択を行う柔軟性のあるシステムです。すなわち、3年次まではまったく同じカリキュラムの下で、語学・一般教養などの基礎教育科目や化学・生物・物理に重点をおいた基礎薬学科目を修得し、徐々に応用薬学科目、医療薬学科目へとステップアップしていきます。また、低学年から、「早期体験学習」や基本的なさまざまな領域の実習を体験しながら、薬剤師になるための基礎的な体力をしっかりと培うと同時に、将来の自分の方向性を決めるための指標にもなります。そうしたことで、高校生レベルでは決めかねた各自の将来設計を描くことが出来るのです。4年次進級後は、それぞれの学科の特徴や利点を生かしながら、それぞれの学科間で互いに交流し、影響を受け合

うことで、より良い相乗効果が生まれることを希望しています。

### 専門薬剤師養成(薬学科)と薬学スペシャリスト養成(薬科学科)

「チャリティ」(慈善)という言葉があります。これはフランス語の「シャリテ」を語源とし、18世紀のフランス革命後に出てくる言葉で「分け隔てなく人々を癒す」という意味です。フランス革命数年前、パリのある病院に若き情熱に燃えた医学生が集まって、「自由・平等・博愛」の精神に則り、理想的な医療をやろうと、一般大衆の治療・診療を行ったのです。そこで、彼らが唱えたスローガンは「人間を診るな。病気を診よ」でした。何だかおかしいですね。実は、当時の医師は、一部の権力者のホームドクターであったため、そこからの脱皮を志し、社会的身分とか立場に関係なく、ひとりの病人として、病気そのものを診ようとしたわけです。ところが、200年の時を経て、それがいつの間にか、人間を物としてデジタルに検査漬けにし、「人間を診ずして病気だけを診る」という誤りを犯しているわけです(作家 五木寛之『他力』より)。医療に携わる薬剤師としても心がけねばならないことです。画一的に人をとらえて、標準的な数値を押し付け、それを判断基準にして処方し、指導するのではなく、人とのコミュニケーションの中から、それぞれに合った適切な、心の通った指導が出来る専門性の高い医療薬剤師を養成するのが薬学科の目指すところです。

一方、これまでの日本の薬学は、創薬化学を軸に製薬企業・大学などでの薬の開発研究、製薬メーカーでの薬の製造・販売及び薬の安全な使用者としての薬剤師養成などを中心に社会に貢献してきました。こうした日本の薬学が持つ多様な人材の育成のため、また、本学が培ってきた多様な分野での社会への人材の輩出のために、本学は薬科学科を併設したのです。4年次進級後、薬学科とは違った応用薬学科目や特別研究を終え、学士として卒業した後、大学院に進学し、2年間のより専門的な領域での研究を修了後に薬学修士の学位が取得できます。薬剤師国家試験受験資格取得のためには、医療薬学科目・実務実習を修得する必要がありますが、「厚生労働大臣の認定に関する省令」を紐解きながら、出来るだけ短期間で必要要件を満たすことができるよう現在カリキュラム委員会でその方策を検討中です。

私たちにとってもまだ経験したことのない新しい出発のときです。「人類あるところに医療あり」です。君たちが薬学の道を志したこと、そして、我が大阪薬科大学に入学してこられたことに自信と誇りを持たせるのが我々の責務だと考えています。君たちをサポートするため、教職員一同一丸となって、全力を挙げて取り組んでまいります。



## 就任の挨拶

臨床実践薬学研究室 教授 荒川 行生

本年4月1日付で、本学に新設されました臨床実践薬学研究室に着任いたしました。どうぞ宜しくお願い申し上げます。この度、創立以来100年以上の伝統を有する本学に着任できましたことを心より誇りに思いますとともに、私の愛する地元大阪の大学で再び勤務できるご縁を与えていただきました方々に深く感謝申し上げます。

私は、大阪大学薬学部を卒業及び同大学院薬学研究科修士課程を修了の後、研修生として同大学医学部附属病院薬剤部に入局以来、これまで病院薬剤師として阪大病院に勤務いたしました。前職では、調剤、製剤、医薬品情報、TDMなどの薬剤実務や、チーム医療（病院感染制御）に従事するとともに、生体内薬物・生理活性ペプチドの微量測定法の確立とその応用研究及びこの関連テーマでの大学院学生に対する研究指導を行いました。また、研修生や実習生の担当者として、薬剤師実務教育も経験

いたしました。今後はこれら経験をさらに brush up し、本学のための教育・研究に活かす所存であります。

さて、本年度より、いよいよ薬学教育6年制がスタートし、本学にもその第1期生の諸君が入学しました。新制度の特徴は、5または6年次において5ヶ月をかけ病院・薬局で行う実務実習にあり、また、逆に、新制度の成功はこれら実習を実効的かつ円滑に行うことにかかっています。それには、医療現場と協調して周到に実習生受け入れの環境整備をし、また、学内で行う事前学習や共用試験（本学報 別項「OSCEとは…」P.14参照）の準備も必要となります。既に、当研究室の恩田講師とともに、学内外の関連委員会・機構との連携のもと、そのための活動に入っております。本学の実務実習担当者として最善を尽くす所存ですが、実習をより良きものとするため、皆様のご指導、ご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



## 就任の挨拶

臨床実践薬学研究室 講師 恩田 光子

このたび、平成18年4月1日付で臨床実践薬学研究室に講師として着任いたしました恩田光子と申します。薬学教育6年制のスタートに際し、母校にて教学に携わる機会を与えていただきましたことに心より感謝申し上げます。

私は、本学卒業後、特定医療法人愛仁会高槻病院薬剤科にて勤務した後、米国の大学院にて医療経営学を学び、帰国後、保険調剤薬局の開設及び運営管理を経験いたしました。そして、平成10年より広島国際大学医療福祉学部医療経営学科に着任し、教育・研究に従事してまいりました。前職では、医療機関や福祉施設などの経営管理職を志向する学生に対し、医療制度・政策、病院や福祉施設などの組織管理の考え方や手法の総合的理解に加え、保健・医療・福祉が有機的に連携し各種サービスを提供

する「包括的医療」の必要性を重視しながら教育・指導にあたってまいりました。

今後は実務家教員として、社会の信頼を獲得できる薬剤師の育成に微力を尽くしたいと思っております。これからの薬剤師には、①地域医療・チーム医療の中で優れた実務能力を発揮するために必要な知識を蓄積すること、②患者の痛みや悩みをともに分かち合える人間性を養うこと、③医療制度や政策の方向を見極めながら施設・部門を管理すること、が求められています。荒川教授の下、実務実習の充実に尽力するとともに、医療現場の課題や問題点を的確に抽出し解決に導くプロセスを計画し実践する方法などについて諸先生方や学生と共に考究していきたいと考えております。何卒よろしくご指導、ご鞭撻の程お願い申し上げます。



## 就任の挨拶

臨床薬剤学教室 助教授 井尻 好雄

本年4月より臨床薬剤学教室（田中一彦教授）に助教授として就任いたしました。よろしくお願いたします。つい先日まで、大阪医科大学附属病院薬剤部に勤務しており、環境の大きな変化に、ただただ困惑しているところでございます。同病院の薬剤部には、本学卒業後、24年間勤務いたしました。その間、『臨床薬学』の確立、すなわち『薬学の基礎と臨床の融合』を目指して奮闘してまいりました。一方、薬学部6年制の導入は、臨床に適応した薬剤師を育成するという国策であるとともに、臨床現場における薬剤師の職能が高く評価された結果と考えられます。

このような背景において、(1)「臨床に即応できる薬剤師の育成」、(2)「ヒト（臨床）にやさしいお薬に関する研究」が、私に与えられた使命と考えております。

(1) 臨床に即応できる薬剤師の育成

講義は、生理学や病態生理を知ることにより、薬の作用を考え合わせていくProblem Based Learning (PBL)の導入を行い、臨床現場において即応力をもった薬剤師の育成を行いたいと考えております。

(2) ヒト（臨床）にやさしいお薬に関する研究

医薬品の適正使用に関する研究を行い、臨床研究・臨床試験と基礎的研究の融合を目指したいと考えております。“薬は今どこで何を？”をテーマとして、薬物間あるいは薬物-健康食品間の相互作用に関する研究を行い、さらに、副作用のメカニズムを解明することにより重大な副作用を回避、あるいは重篤化を回避し、ヒトにやさしい“薬”作りを目指したいと考えております。

最後に、私はハタケ違いの新参者ですので、先生方のご指導・ご鞭撻の程を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

## 退職にあたって

松村 瑛子

去る3月31日に定年退職を致しました。本学卒業後数年を経た昭和45年に、畠川野タツ先生のお勧めで母校に奉職させて頂いてから30年余りの歳月が瞬く間に過ぎ去りました。この間に、お力添えとお励ましを頂いた教職員の皆様を始め、多くの方々に心から感謝を申し上げます。

毎年、水温む3月には、4年間ときには6年間に共に過ごした学生を送り出し、桜花爛漫の4月には、大学生活への期待に目を輝かせた多くの新入生を迎える、まさに惜別と出会いの繰り返しでした。そして私自身も、卒業してゆく学生を前にして『全身全霊でつき合ってきただろうか』と反省し、新入生には『新たな気持ちで真剣に接していこう』と決意する、それを繰り返してきました。生命にかかわる重大な責任を負う薬学徒にふさわしい知識と人格を身につけて欲しいと願いつつ、その形成に少しでも力添えが出来ただろうか？教壇に立つからには、まず自分自身の人間としての品格と識見を高めることが大切と認識しつつ、その努力を十分にしたらどうか？自分なりに頑張ってきたつもりではありますが、結果的にはいずれにおいても微力でしかなかったことを、大変恥ずかしく思っております。

今、30数年の大学での生活を振り返って目ぶたに浮かぶのは、教室で眠い目をこすり乍ら懸命に(?)講義に耳を傾けてくれた学生の顔々、実習室で始めての実習に取り組む緊張した学生の顔々、研究室でたわいないオシャベリをしながら昼食を共にした特別実習生の顔々、夜中に一緒にラーメンを啜りながら研究することの厳しさを体中に滲ませていた大学院生の顔々、授業をエスケープして私の部屋で持論の薬学論を熱く語ってくれるなど個性豊かだったアドバイザーの学生の顔々、大学祭で揃いのジャンパーを着て張り切っていた学生の顔々、真夏の太陽のもとで真っ黒になってコートを走り回っていたソフトテニス部(顧問をしていました)の学生の顔々……です。私の大学での生活の主軸が学生との交流であったことを再認識し、そのことを大変うれしく思うとともに、そのような学生の皆さんに支えられ励まされてここ迄来ることができたのだと、感謝の気持ちでいっぱいです。

薬学教育の年限が延長され、本学も大きな転換期を迎えています。良い学風を育て、活力ある明るい大学に大きく飛躍する好機でもありましょう。教職員、学生の皆さんを始め、大学を支える全ての人々が心を一つにして大学の発展に取り組まれますように祈っております。

## 松村瑛子教授ご退職に寄せて

生命薬科学研究室 講師 坂口 実

松村瑛子先生には、平成18年3月31日をもって定年退職されました。

先生は、昭和45年に本学の助手として着任され、ご退職になられるまで、36年間という長きに亘り、教育と研究の両面において精励されてこられました。学部教育では、基礎生物学分野の講義・実習を中心に担当されました。先生は、絶えず学生の興味・やる気を喚起する努力と工夫を凝らされ、まさしく一人ひとりの顔を見ながらの教育を実践されていたらっしゃいました。学生の受講態度には常に厳しい姿勢で臨まれていらっしゃったようですが、先生を慕う学生や卒業生は多く、アドバイザーや研究室の学生は勿論のこと、それ以外の学生も先生の個室をよく訪れていましたことは、先生のお人柄ゆえではないかと思えます。大学院教育・研究におきましては、常に社会への貢献を意識され、微生物由来の有用酵素や生理活性物質に関する研究を、多くの学生とともに精力的に推し進めてこられました。最近でも、微生物由来の免疫機能調節物質に関して興味ある成果を上げておられましたので、この時期にご退職されることは残念だったのではと思います。

私は、学生時代から足かけ24年間お世話になりました

たが、その間、先生は強烈な情熱を教育に注ぎ続けられ、学生一人ひとりの個性を尊重し、常に弱者の味方であった御信念は一度も揺らぐことはありませんでした。学生・卒業生の成長を殊の外喜ばれ、いくら多忙でも、学生や来校した卒業生との対話を大切にされていたらっしゃいました。そのような先生が、既に本学を去られていることは残念で仕方ありません。どうか今後とも、ご助言、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、松村先生がお元気でご退職の日を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。また、長年に亘り本学にご尽力頂いたことに感謝申し上げますとともに、今後の益々のご発展をお祈りいたします。





## 退職の挨拶

赤木 昌夫

薬学6年制だ、今年はどうのように取り組もうかと考えていた矢先に体調不良で入院を繰り返し、多大な御迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。さらに平成18年3月末で定年を迎え、急に引退することになり、皆様方に御挨拶に伺うこともなく、引き上げてしまい、心苦しく思っております。

顧みますと、東京オリンピックの年に本学を卒業し、北大大学院修了後、母校に着任し、100年の伝統ある大学で早くも37年になりました。この間、皆様方にはひとかたならぬお世話になり、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

先任の先生方の講義、クラブ顧問を引き継いで参りました。講義は、合成化学、高分子化学、薬品化学、専門

ドイツ語、有機化学、薬品製造学と関連の実習に、クラブ顧問は軟式庭球部（ソフトテニス部）、写真部、古美術研究部、旅行写真部、弓道部に携わってきました。親子2代の顔を見ながらの講義が続き、そろそろ引退を感じる頃となりました。青春から老年期まで学生達との交流は楽しいもので、思い出に残るものばかりです。ありがとうございました。

心筋梗塞と診断される前に、三途の川のそばまで行って来ました。今までにない人生観に出会えたような感じがしています。引退を機に、今までとは全く違った情報の中に、喜びと楽しみを味わえるような新たな世界の生活を求めていきたいと思っております。

最後に、大阪薬科大学の発展と皆様方の御健勝を心よりお祈り致します。

## 赤木昌夫教授ご退職に寄せて

機能分子創製化学研究室 教授 浦田 秀仁

赤木昌夫先生には、平成18年3月31日をもって定年退職されました。

赤木先生は、昭和39年3月に本学薬学部薬学科をご卒業後、同年北海道大学大学院薬学研究科博士課程に進学され伴義雄教授のもとで研鑽を積まれました。昭和44年3月に同課程を修了され、同年4月大阪薬科大学特別研究生を経て、同年9月大阪薬科大学合成化学教室の助手として着任され、昭和45年4月に講師、昭和51年4月に助教授、平成17年4月に教授に昇任され、本年3月に退職されるまで37年間という長きにわたり本学の教育・研究さらに管理運営に尽力されました。この間、大学の組織変更に伴い先生の講座は、「薬品化学教室」「第二薬品製造学教室」「機能分子創製化学研究室」と改称されてきましたが、一貫して「複素環化合物の光化学反応」を研究テーマとして進めてこられました。先生は、試薬を必要とせず原料と紫外線のみで反応が可能な、クリーンな合成手法としての光化学反応の有用性を示してこられ、現在流行の「グリーンケミストリー」の概念にいち早く気付いておられたと思います。

教育面では、「合成化学」「薬品製造学」「有機化学」

などの有機化学系の授業科目を担当され、長年にわたり本学における有機化学教育の一翼を担ってこられました。学生実習では、先生は最後の学生が実習を終えるまで熱心に指導しておられ、その体力と情熱には若手の我々も頭が下がる思いでした。多くの学生が質問、相談や雑談等に先生の部屋を訪ねていたのも、先生の学生に対する思いの深さからであろうと思います。医療人を社会に送り出す使命を帯びた本学には、赤木先生のように私利私欲のない純粋で崇高な人徳を持つ人材がもっと必要であろうと考えます。研究室での先生の指導方針は「自由にのびのびと」で、私にとっても大いに自分の可能性にチャレンジすることができた、楽しくもあり、遣り甲斐のある19年間でした。

昨秋、不幸にも先生は体調を崩され不本意な数か月を送られたことと思いますが、全快して定年を迎えられたことは誠に不幸中の幸いで、これからの第二の人生を大いに楽しんでいただきたいと思います。最後になりましたが、赤木昌夫先生の長年にわたる本学へのご尽力に心より御礼を申し上げますとともに、今後の先生の御健勝と益々の御発展をお祈り致します。

平成17年度後期の授業・実習評価アンケートの結果を報告いたします。平成13年度に開始したこのアンケートも丸5年が経過し、本学における自己点検・評価活動の中でも極めて重要な項目に位置づけられるようになりました。平成16年度前期分からは、教員からの指摘に基づいていくつかの設問項目の表現に改良を加えています。詳細についてはアンケート結果をご覧くださいと思いますが、前回(平成17年度前期)同様、ほぼ全ての設問項目(1~17)で3.5以上という高い数値が得られました。これは、各教員がこれまでのアンケート結果を真摯に受け止め、講義に対して自己努力を重ねたことが要因の一つであると思われます。その一方、前回大きく改善が見られたアンケート回答率については、約10ポイント低下しました。これまでの結果から後期において回答率が低下する傾向が見られます。これにはいろいろな要因が考えられますが、今後は更に上昇するべく対策を練る必要があります。

アンケートを始めた当初は、講義の最終日にアンケートをとっていましたが、アンケート結果を授業に還元するために学期半ば頃に行うべきとの意見に基づいて、一

昨年から、アンケート用紙の教員への配布時期を早めるようにしました。したがって、教員によってはアンケートを早めに行い、学生の要望や意見を速やかに講義に取り入れる努力もなされています。また、本授業評価アンケートの結果に対する教員側からのコメントやメッセージは、学生に公開されています。また、教員サイドから教務部への要望も収集しており、少しでも良好な講義環境への改善努力もなされています。

5年という節目を迎え、同時に新しい薬学教育制度も開始されました。特に新しい6年制薬学教育カリキュラムでは、授業形態も変貌し、また、多様化することが予想されます。本アンケートについても根本的な改良を考える時期にきていることも確かです。本授業・実習評価アンケートの実施目的は、各授業・実習において各教員が自己努力を惜みず更なる質の改善に役立てることであります。また、学生の側から見れば、授業に対する日頃の取り組みや各自の勉学に対する意欲の点検に活かされるべきであります。教務部としましても、本アンケートが本学の教育活動の改善により役立つよう、今後も設問項目や実施方法の点検に努めたいと考えています。

## 平成17年度後期授業評価アンケート集計

	全学年	1年次生	2年次生	3年次生
延べ履修人数	11,849名	3,822名	4,419名	3,608名
延べ回答人数	5,971名	2,109名	2,279名	1,583名
回答率	50.4%	55.2%	51.6%	43.9%

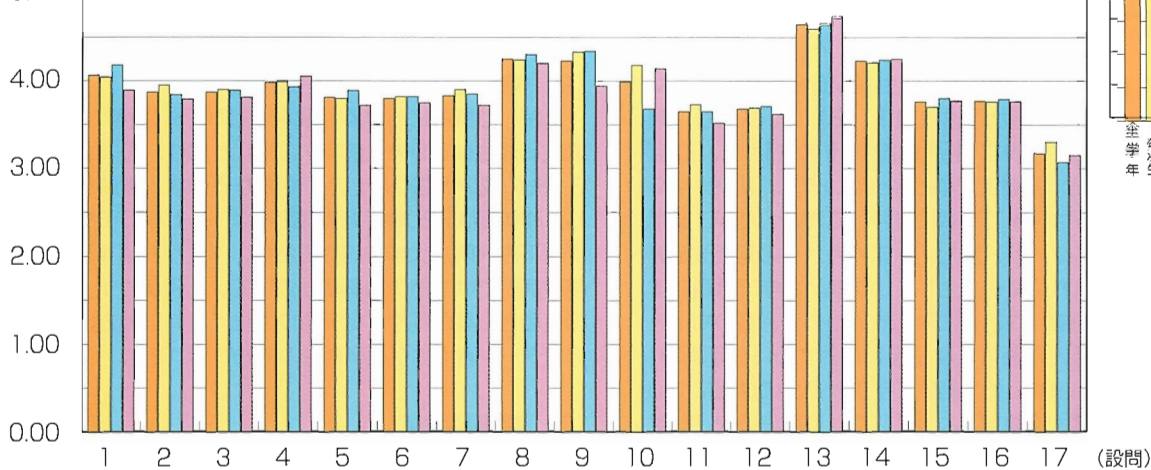
回答は、5-そう思う(5ポイント)、4-どちらかといえばそう思う(4ポイント)、3-どちらともいえない(3ポイント)、2-あまりそうは思わない(2ポイント)、1-そうは思わない(1ポイント)から選択。ただし、設問2、9、10については、0-該当しない(0ポイント)を設けている。また、各設問において回答がない場合は、集計から除外している。

### 〔設問〕

1. 口調が明瞭で聞き取りやすかったですか
2. 板書やその他(プリント、OHP、ビデオ、液晶プロジェクター)による説明が適切で授業の理解に役立ちましたか(板書等を使用しなかった場合は0を記入してください)
3. ポイントをよく押さえ、うまく要約されていましたか
4. 授業は、「授業の内容」(シラバス)に沿って進められましたか
5. 授業は、説明が十分で理解しやすかったですか
6. 授業に対する関心を高める努力がなされていましたか
7. 私語や態度の悪い学生に対し注意するなど、静かに授業が行われるように工夫されていましたか
8. 授業は、時間通り始まり時間通り終わりましたか
9. 指定されたテキストや教材は適切に使用されていましたか(指定されていない場合は0を記入してください)
10. 休講があった場合、その補いは十分にされていましたか(休講がなかった場合は0を記入して下さい)
11. 授業内容のレベルはあなたにとって適切でしたか。次の基準で回答してください  
(5-非常に難しい、4-難しい、3-適切、2-簡単、1-簡単すぎる)
12. この授業を総合的に評価してください。次の評価基準で回答してください  
(5-非常に良い、4-良い、3-普通、2-あまり良くない、1-良くない)
13. あなたは、この授業によく出席しましたか
14. あなたは、私語などせず授業に集中しましたか
15. この授業を受けてその分野に対する関心が高まりましたか
16. この授業は、あなたにとって有意義なものでしたか
17. あなた自身、授業を理解するよう努力(予習・復習等)していましたか

(平均値)

5.00



### 全学年

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい うは思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	4.06	36.4%	39.5%	17.9%	5.0%	1.0%	-	0.2%
2	3.87	27.5%	38.8%	23.3%	6.5%	1.4%	2.1%	0.2%
3	3.87	27.7%	39.3%	26.2%	5.2%	1.4%	-	0.3%
4	3.98	29.7%	39.8%	28.5%	1.3%	0.2%	-	0.6%
5	3.81	25.9%	39.2%	26.8%	6.4%	1.6%	-	0.2%
6	3.80	25.3%	37.8%	29.5%	5.8%	1.4%	-	0.3%
7	3.83	26.1%	37.8%	29.9%	4.9%	1.0%	-	0.3%
8	4.25	45.6%	37.1%	14.5%	1.8%	0.7%	-	0.3%
9	4.23	42.7%	30.7%	13.6%	2.9%	0.8%	9.0%	0.3%
10	3.99	12.7%	6.5%	7.9%	0.8%	1.2%	70.2%	0.7%
11	3.65	14.1%	38.4%	45.6%	1.3%	0.4%	-	0.4%
12	3.68	17.9%	40.3%	34.6%	5.5%	1.4%	-	0.3%
13	4.67	74.1%	19.0%	5.6%	0.7%	0.2%	-	0.4%
14	4.23	45.2%	36.3%	14.7%	2.6%	0.8%	-	0.5%
15	3.76	25.2%	36.1%	29.5%	6.8%	2.0%	-	0.4%
16	3.77	25.1%	36.6%	29.8%	5.9%	2.1%	-	0.4%
17	3.17	12.2%	22.5%	42.0%	15.6%	7.2%	-	0.5%

### 1年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい うは思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	4.04	35.4%	39.2%	20.0%	4.2%	0.9%	-	0.3%
2	3.95	30.0%	40.0%	22.2%	5.3%	0.8%	1.4%	0.3%
3	3.90	27.3%	41.2%	25.9%	4.2%	1.0%	-	0.4%
4	3.99	30.6%	38.4%	29.2%	1.1%	0.2%	-	0.5%
5	3.80	25.2%	38.9%	27.4%	6.4%	1.8%	-	0.3%
6	3.82	25.8%	37.8%	29.4%	5.5%	1.2%	-	0.3%
7	3.90	29.6%	37.0%	27.4%	4.6%	1.0%	-	0.5%
8	4.24	44.6%	37.4%	15.1%	1.8%	0.6%	-	0.4%
9	4.33	45.7%	29.4%	12.1%	1.6%	0.4%	10.5%	0.4%
10	4.18	13.9%	6.5%	6.7%	0.3%	0.5%	71.1%	0.9%
11	3.73	17.7%	40.1%	39.4%	1.8%	0.3%	-	0.6%
12	3.69	17.7%	40.1%	36.3%	4.2%	1.3%	-	0.4%
13	4.62	71.2%	20.1%	7.0%	0.9%	0.4%	-	0.5%
14	4.21	45.3%	34.3%	16.1%	2.5%	1.0%	-	0.7%
15	3.70	24.0%	33.6%	33.0%	6.2%	2.7%	-	0.5%
16	3.76	24.5%	36.1%	31.4%	5.3%	2.2%	-	0.5%
17	3.30	15.1%	23.4%	42.2%	13.4%	5.2%	-	0.7%

### 2年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい うは思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	4.18	42.0%	38.9%	14.2%	4.3%	0.5%	-	0.1%
2	3.84	27.6%	37.4%	23.5%	7.5%	1.7%	2.2%	0.2%
3	3.89	30.3%	36.7%	25.3%	6.0%	1.5%	-	0.2%
4	3.93	27.1%	40.0%	30.5%	1.6%	0.2%	-	0.6%
5	3.89	29.7%	38.6%	24.3%	5.7%	1.5%	-	0.2%
6	3.82	26.8%	36.3%	29.9%	5.4%	1.4%	-	0.2%
7	3.85	26.4%	38.7%	29.0%	4.4%	1.1%	-	0.4%
8	4.30	46.6%	38.7%	12.5%	1.4%	0.4%	-	0.3%
9	4.34	47.3%	30.6%	9.9%	2.2%	0.6%	9.1%	0.4%
10	3.68	10.0%	4.8%	9.7%	1.3%	2.2%	71.0%	1.0%
11	3.65	13.7%	39.4%	45.4%	1.1%	0.2%	-	0.2%
12	3.71	19.4%	41.0%	32.0%	5.8%	1.6%	-	0.2%
13	4.66	73.5%	19.8%	5.5%	0.8%	0.1%	-	0.3%
14	4.24	44.9%	37.3%	13.8%	3.0%	0.5%	-	0.4%
15	3.80	26.6%	37.1%	27.1%	7.3%	1.4%	-	0.4%
16	3.79	26.6%	36.0%	28.6%	6.3%	2.1%	-	0.4%
17	3.07	10.2%	21.3%	41.7%	17.7%	8.7%	-	0.4%

### 3年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい うは思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	3.89	29.6%	40.9%	20.6%	7.1%	1.8%	-	0.0%
2	3.79	24.0%	39.4%	24.6%	6.8%	1.9%	3.0%	0.2%
3	3.81	24.4%	40.7%	27.9%	5.3%	1.6%	-	0.1%
4	4.05	32.0%	41.5%	24.6%	1.0%	0.2%	-	0.7%
5	3.72	21.2%	40.3%	29.5%	7.3%	1.7%	-	0.0%
6	3.75	22.4%	40.0%	29.1%	6.6%	1.6%	-	0.3%
7	3.72	21.0%	37.5%	34.3%	6.1%	0.9%	-	0.1%
8	4.20	45.2%	34.6%	16.6%	2.2%	1.4%	-	0.0%
9	3.94	32.2%	32.8%	20.9%	5.7%	1.6%	6.7%	0.1%
10	4.14	15.0%	8.9%	6.7%	0.5%	0.9%	67.7%	0.3%
11	3.52	9.7%	34.7%	54.0%	0.8%	0.6%	-	0.3%
12	3.62	15.9%	39.6%	36.1%	6.8%	1.5%	-	0.1%
13	4.74	79.0%	16.4%	3.8%	0.4%	0.1%	-	0.3%
14	4.25	45.4%	37.5%	14.0%	2.0%	0.8%	-	0.3%
15	3.77	24.6%	37.8%	28.6%	6.9%	1.8%	-	0.3%
16	3.76	23.9%	38.1%	29.3%	6.3%	2.1%	-	0.3%
17	3.15	11.3%	23.2%	42.0%	15.5%	7.6%	-	0.4%

今春卒業した学部学生(53期生)270名(男83名・女187名)の進路・就職状況は(表1、2)に示す通り、薬剤師国家試験合格後に進路決定する者を除き、ほぼ100.0%の進路・就職決定率となっています。薬系大学卒業生の就職状況は今まで堅調に推移してきましたが、薬学教育6年制のスタート、また、本年4月からの薬価改定等もあり、その流れに変化が生じています。本学では急変する就職動向に的確かつ迅速に対応するために、質の向上・量の拡大を図るとともに、学生全員に対する「個別指導」に力を注いでいます。その結果、学生が自らの進路について、早くから考え行動するようになり、進路先の決定も学生主導型となってきています。平成17年度の就職状況は2つの大きな特徴があります。

特徴の1つは、昨年同様、大学院進学者が30.0%で進路先のトップということです。これは本年度よりスタートした薬学教育6年制が大きく影響しています。特徴の2としては、公務員への就職者が増加しているということです。就職先としては、厚生労働省(麻薬取締官)、大阪府、兵庫県、三重県、高槻市、倉敷市、国立病院機構(大阪及び大阪南医療センター他)など、多岐にわたっています。これは全学年を対象にした「公務員対策講座」を年4回開催したことが大きく寄与しています。就職部・就職課では年間20数回にもおよびガイダンスやセミナーを開催し、その都度アンケートを取り、質の向上に努めています。以下に他の業種についての特徴を記します。

## (1) 薬局

当職種への就職率は25.9% (前年17.8%) と前年比8.1%と増加しました。就職する企業も全国展開企業と地元有力企業へ2極化され、地元勤務を確約する企業への就職者が増えているのが特徴です。地域や規模によっては薬剤師不足ですが、今後、薬科大学の新增設に伴う大幅薬剤師増とともに、求人数は減少し、薬業関連企業同様、厳選採用に移行すると予測しています。ちなみに求人件数は平成14年度532件をピークに毎年減少し、本年度は460件でした。なお、制度の変わり目である、平成21、22年をにらんだ薬剤師採用の仮需が起り、その動きは既に一部で出はじめています。

(表1)

平成17年度 学部卒業生(53期生)進路・就職状況

(平成18年3月31日現在)

区分	男	%	女	%	計	%	
薬局	18	21.7%	52	27.8%	70	25.9%	
病院・診療所	3	3.6%	31	16.6%	34	12.6%	
病院研修生	3	3.6%	13	7.0%	16	5.9%	
薬業関連企業	(MR)	12	14.5%	20	10.7%	32	11.9%
	(内勤)	1	1.2%	9	4.8%	10	3.7%
公務員・教職員	6	7.2%	11	5.9%	17	6.3%	
進学 (大学院前期課程 他)	38	45.8%	43	23.0%	81	30.0%	
その他	2	2.4%	8	4.3%	10	3.7%	
計	83	100.0%	187	100.0%	270	100.0%	

## (2) 病院・診療所および病院研修生

病院・診療所における就職率は12.6% (前年14.4%)、病院研修生は5.9% (前年7.2%) となり、この領域では3.1%の減少となりました。病院からの求人数は年々増加し、昨年度は720件で過去最高となっておりますが、199床以下の病院が大半を占めており、学生が希望する各地の基幹病院では依然欠員募集が続いている現状です。病院への就職者も薬局同様、地元志向が強く、特に地方出身学生のUターン者増は今春卒業生の特徴の1つです。

## (3) 薬業関連企業

当領域への就職は、MR・内勤あわせて15.6% (前年14.9%) で0.7%の微増でした。MRインターンシップの拡大や領域別ガイダンスでの卒業生による講演等により、学生の企業に対する理解も深まってきており、本年度以降は拡大していくことを期待しています。特に平成17年4月から始まった改正薬事法(製造承認→製造販売承認)により、医薬品製造受託企業からの品質管理者等への求人も増加傾向にあり、当領域への情報収集、情報開示の質・量の拡大に努めています。

## (4) その他・未定

進路変更等により就職しないという者4名を除く未定の6名は、薬剤師免許取得後にそれを必要とする職種(病院、保険調剤薬局等)への就職を決めようとする者であり、免許取得後には全員就職が決定しています。

なお、大学院博士前期課程修了生(30期生)51名(男18名・女33名)の進路・就職状況は(表3、4)の如く100.0%の就職率となっています。大学院修了生の就職は、薬業関連企業が56.9% (前年64.3%) と最も多くなっています。これは、研究、学術、開発等の内勤職の増加が大きな特徴です。昨年4月施行の改正薬事法の影響等もあり、今後もこの傾向は続く予想しています。また、大学院修了生も学部生同様、公務員への就職が11.8% (前年3.6%) と確実に増加しています。

(表3)

平成17年度 大学院博士前期課程修了生(30期生)進路・就職状況

(平成18年3月31日現在)

区分	男	%	女	%	計	%
薬局	2	11.1%	2	6.1%	4	7.8%
病院・診療所	3	16.7%	6	18.2%	9	17.6%
病院研修生						
薬業関連企業	(MR)		1	3.0%	1	2.0%
	(内勤)	9	50.0%	19	57.6%	28
公務員・教職員	2	11.1%	4	12.1%	6	11.8%
進学 (大学院後期課程 他)	2	11.1%	1	3.0%	3	5.9%
その他						
計	18	100.0%	33	100.0%	51	100.0%



(表2)

## 平成17年度 学部卒業生(53期生)の進路・就職先

## ■公務員・教職員

厚生労働省(麻薬取締官)	2	高槻市	1	宇陀市立病院	1	姫路医療センター(非常勤)	1
大阪府	2	倉敷市	1	日南町国民健康保険日南病院	1	呉医療センター(非常勤)	1
兵庫県	1	国保中央病院	1	大阪医療センター(非常勤)	2		
三重県	1	市長長浜病院	1	大阪南医療センター(非常勤)	1	計	17

## ■薬業関連企業・その他

アポットジャパン	2	クラヤ三星堂	1	武田薬品工業	5	兵庫県赤十字血液センター	1
天藤製薬	1	興和	2	田辺製薬	1	ファイザー	1
アーム	1	三共	1	中外製薬	1	ベルシステム24	1
エーザイ	4	住商アグロインターナショナル	1	東和薬品	1	マルホ	1
大阪府赤十字血液センター	1	セブツツセブン	1	日研化学	1	三菱ウェルファーマ	2
大塚製薬	1	ゼリア新薬工業	1	日本新薬	1		
杏林製薬	1	第一製薬	1	日本ペーリンガーインゲルハイム	1		
協和発酵工業	1	大日本住友製薬	4	ノバルティスファーマ	1	計	42

## ■病院・診療所

藍野花園病院	1	済生会今治病院(愛媛県)	1	臨生会脳神経外科病院	1	水口病院(滋賀県)	1
朝日大学歯学部附属病院村上記念病院	1	さわ病院(豊中市)	1	長崎病院(広島市)	1	宮崎大学医学部附属病院	1
石切生喜病院	1	昭和病院(尼崎市)	1	中江病院(和歌山市)	1	門司労災病院(北九州市)	1
金沢医科大学病院	1	城山病院(羽曳野市)	1	新潟済生会第二病院	1	八尾徳洲会総合病院	1
京都武田病院	1	蘇生会総合病院(京都市)	1	樹本産婦人科医院(広島市)	1	山口病院(滋賀県)	1
協立病院(川西市)	1	大寿会病院(枚方市)	1	松下記念病院(守口市)	1	横浜旭中央総合病院	1
近畿大学医学部附属病院	1	高槻赤十字病院	1	松山市民病院(愛媛県)	1	大阪大学医学部附属病院(非常勤)	1
甲南病院加古川病院	1	近森病院(高知県)	1	三菱水島病院(倉敷市)	1		
神戸アドベンチスト病院	1	中国労災病院	1	みどりヶ丘病院(高槻市)	1	計	34

## ■薬局

アイセイ薬局(東京都)	1	協立薬品	1	総合メディカル	4	日本調剤	7
インファーマシーズ	2	クラフト	3	たかだ調剤薬局(大分県)	1	ファーコス	1
アルカ	1	クリエイトエス・ディー	1	タキヤ	1	ファルコクリニカルプラン	1
イオン	1	コスモス薬品(福岡県)	1	たんぼぼ薬局	3	マツモトキョシ	2
育星会	2	コーナン薬局(高槻市)	1	テヨーファーマシー(高松市)	2	メディカプラン京都	1
イレブン	1	サンドラッグ	1	東洋ミネラル(守口市)	1	メディカル光	6
エムシーディー(神奈川県)	1	サンブラザ加地	1	栃本天海堂	1	矢部(広島市)	1
大阪ファルマ・プラン	2	ジップ・ホールディングス	2	富永調剤薬局(岡山市)	1	ユタカファーマシー	1
オーパス	4	スギ薬局	3	ナガタ薬品	1	リゲルコーポレーション	1
関西メディコ	1	セガミメディクス	3	にじ(大阪市)	1	計	70

## ■大学院(博士前期課程)進学・その他

大阪薬科大学	61	京都大学	4	九州大学	1	岡山大学(歯学部編入)	1
大阪大学	5	岡山大学	2	北海道大学	1		
大阪市立大学	4	神戸大学	2			計	81

## ■病院研修生

大阪大学医学部附属病院	8	京都大学医学部附属病院	1	滋賀医科大学附属病院	1	奈良県立医科大学附属病院	1
神戸大学医学部附属病院	3	九州大学病院	1	名古屋大学医学部附属病院	1	計	16

(表4)

## 平成17年度 大学院博士前期課程修了生(30期生)の進路・就職先

## ■公務員・教職員

大阪市(消防局)	1	大阪医療センター(非常勤)	2
京都市	1	大阪大谷大学 薬学部(助手)	1
東徳島病院	1	計	6

## ■薬局

大阪薬科大学附属薬局	1
オーパス	2
総合メディカル	1
計	4

## ■薬業関連企業・その他

アルフレッサファーマ	1	生児栄養薬品	1	バイエル薬品	2
大阪府赤十字血液センター	1	第一製薬	1	バレクセル・インターナショナル	1
小野薬品工業	1	大幸薬品	2	ピオフェルミン製薬	1
共和薬品工業	1	大鷲薬品工業	1	扶桑薬品工業	1
健栄製薬	1	大洋薬品工業	1	丸石製薬	1
沢井製薬	1	WDBエウレカ	1	ヤクルト本社	1
三米源エフ・エフ・アイ	1	東和薬品	3		
三和化学研究所	2	常磐薬品工業	1		
住化分析センター	1	日研化学	1	計	29

## ■病院・診療所

京都桂病院	1	神戸朝日病院	1
近畿大学医学部附属病院	2	県西部浜松医療センター	1
近畿大学医学部奈良病院	1	国立循環器病センター(非常勤)	1
(医) 錦秀会	1	計	8

## ■病院研修生

京都大学医学部附属病院	1
計	1

## ■大学院(後期課程)進学・その他

大阪薬科大学	1	専門学校	1
京都大学	1	計	3

平成18年度に入り、いよいよ、薬学教育6年制の第1期生が入学してきた。皆んな若々しい笑顔である。今回も、数ヶ月前から教務部を交えて新入生交流・導入教育の在り方を検討したが、意見はまとまらない。とりあえず、例年どおり、各アドバイザーごとの交流会を実施して頂くほか、学生部・課主導で新入生講演会（テーマ：「期待されるこれからの薬剤師」、講師：(株)日本経営、尾原廣子氏）をお願いすることとした。講師のご経歴は、みずほ銀行の窓口・受付業務から(株)日本経営の人事・秘書部を経て、教育研修部へ。現在は、(株)オーパスの教育インストラクターとして、主に、接遇研修を担当されている。ご講演の内容は、「将来、薬剤師を目指す学生が身につけておくべきルール、エチケット、マナーを中心に、物の見方・考え方、相手も、自分も心穏

やかなコミュニケーションを行うための接遇（応接処遇）などについて」。ご講演の内容もさることながら、分かりやすい論調で、時には、フロアの後部座席まで足を運んで学生達に語りかけ、聴衆の心を引きつける見事な講演会であった。一方、大学の先生方のご講演では、往々にして「頭の上から教育する」口調になりがちであるが、尾原氏は、具体的なテーマについて、学生と同じ高さの目線で話され、「若い人相手には、こんな方法もある」と感じる90分であった。この講演による教育効果が、いつ頃、どのように学生の中に出てくるか、楽しみであり、それを待ちたい。最後に、会社での新入社員の研修などの忙しい時期に、快くご講演をお引き受け頂いた尾原女士に心から感謝するとともに、紹介の労をお取り頂いた栗原学長および藤田教授に厚く御礼申し上げます。

## 学生相談室からのメッセージ

学生相談室相談員 岡 鈴佳

### 「遊び」

今年もまた春がやってきました。キャンパスでは毎年、桜がとてもきれいで、そのたくさんの淡いピンクが春がきた喜びを感じさせてくれます。そして日差しが強さを増し、風も気持ちよく感じられる頃には、今度はつつじが見事なほど鮮やかに咲き誇っています。花は不思議と季節に合った色合いで、私たちを楽しませてくれます。入学したばかりの1年次生の皆さんも、そんなキャンパスを新鮮な気持ちで眺めていることだと思います。

4月の新入生ガイダンスでは学生相談室からも少しお話をさせていただきました。大学生になったばかりの人たちにどんな話をすればいいかとあれこれ考えた中で、私が一番伝えたいと思ったのは「遊んでくださいね」ということでした。「遊ぶ」というとなんだか悪いイメージを抱きがちですが、「遊び」のない生活は心を干からびさせます。臨床心理学者の河合隼雄氏はその著書の中で遊びの重要性を述べ、その理由として遊びは『あらゆる創造活動の源泉であるから』としています。子どもが遊んでいるのを見ると分かりますが、子どもたちは「〇〇ごっこ」と称していろいろな想像力を働かせます。「冒険」と称して知らない場所に出かけます。遊びの中のルールは上手に自分たちが遊びやすいように（時には都合のいいように）に変えられています。おかしくて笑い転げることがあり、ケンカして大泣きすることもあります。遊びの中には決まった答えはないのです。だからそれぞれの直感と工夫でどんなふうにもなります。思いがけないハプニングが起こります。それがまた遊びをより面白いものにしてくれます。

学生の皆さんは、子どもの頃、どのような遊びの思い出がありますか？たくさん遊びましたか？大学生にもな

るとさすがに「〇〇ごっこ」はしませんが、何か想像力を働かせる活動をしていますか？まだ行ったことのない場所、見たことのないものに対する興味を持っていますか？幼い子どもだけでなく大人になっても、遊びの中から得るものは多いものです。ぜひたくさん遊んで、充実した学生生活にしてほしいと思います。ただ、命を大切に。そして、もう大人であることの責任感を忘れずに。



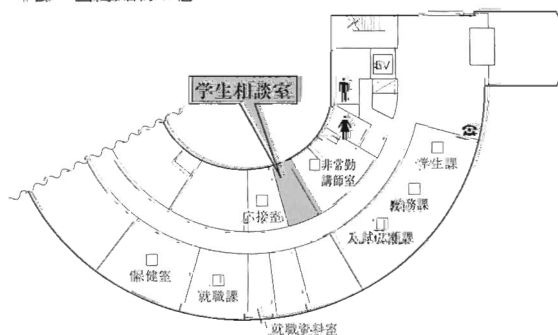
岡 鈴佳相談員

### 開室時間

毎週月曜日 12:00~16:00  
毎週木曜日 12:00~16:00

### 《場所》

本部・図書館棟1階



tel: (072)690-1077(直通)  
mail: counsel@gly.oups.ac.jp

第91回薬剤師国家試験が本年3月11日、12日の両日に実施され、その合格者発表が4月6日に厚生労働省で行われました。本学の今年度の成績は既卒者を含めた全体合格率が82.03%（全国13位）、新卒合格率は93.33%（全国2位）の成績でした（表1）。新卒につきましては、（表2）に見られますように、89回3位、90回1位、91回2位と推移しており、ここ最近の国家試験対策が極めて順調であったと考えられます。一方、

（表1）  
第91回薬剤師国家試験合格状況（本学）

	受験者数	合格者数	合格率	全体順位	私立順位
新卒	270	252	93.33	2	2
既卒	75	31	41.33	22	20
総数	345	283	82.03	13	13

（表2）  
新卒合格率の変遷

区分	受験者(人)	合格者(人)	合格率(%)	新卒全国平均	
第91回 (H.18)	Y 男	45	44	97.78%	85.16% (86.26%) 2位
	Y 女	135	129	95.56%	
	計	180	173	96.11%	
	S 男	38	31	81.58%	
	S 女	52	48	92.31%	
計	90	79	87.78%		
総数	270	252	93.33%		
第90回 (H.17)	Y 男	29	29	100.00%	93.29% (94.20%) 1位
	Y 女	109	109	100.00%	
	計	138	138	100.00%	
	S 男	45	45	100.00%	
	S 女	52	52	100.00%	
計	97	97	100.00%		
総数	235	235	100.00%		
第89回 (H.16)	Y 男	41	41	100.00%	86.42% (86.97%) 3位
	Y 女	122	118	96.72%	
	計	163	159	97.55%	
	S 男	30	28	93.33%	
	S 女	62	54	87.10%	
計	92	82	89.13%		
総数	255	241	94.51%		

〔備考〕新卒全国平均欄の2段目（ ）内は、私立大学のデータ、同3段目の順位は、本学の私立大学（29）における順位である。

今年度の既卒合格率は41.33%（全国22位）と全国既卒平均合格率38.67%よりは幾分良いとはいうものの、この影響で全体合格率の低下を招いており、ここ何年かの課題である「既卒者の対策」が本学の急務であると考えられる結果となりました。科目別におきましては、「衛生薬学」が全国平均より大きく上回り、私学全体ではトップでしたが、「基礎薬学」は新卒者平均で1.2ポイントも下回り、私学全体で20位と、やはり以前からの課題を残したままになってしまいました（表3）。

（表3）  
第91回薬剤師国家試験 学校別・科目別・換算点

		受験者	平均点	基礎薬学	衛生薬学	薬事法規	医療薬学
全国(A)	合計	11,046	69.15	64.18	71.69	63.63	71.70
	新卒	8,455	72.12	67.17	74.81	65.45	74.81
	その他	2,591	59.44	54.43	61.49	57.70	61.54
本学(B)	合計	345	71.08	63.40	76.15	65.35	74.19
	新卒	270	74.03	65.98	80.05	67.43	77.15
	その他	75	60.47	54.11	62.10	57.93	63.53
差異(B)-(A)	合計		1.94	-0.78	4.46	1.72	2.49
	新卒		1.91	-1.19	5.24	1.97	2.34
	その他		1.04	-0.32	0.61	0.23	1.99

厚生労働省発表の素点による平均点を換算点(得点率%)に変更した。

したがって、本年度の薬学総合演習の対策としては、ここ最近の基本方針を引き続き継承しながら、(1)「基礎薬学の学力向上」を今まで以上に強化すること、(2)「成績不良者の学力向上」に力を注ぐこと、(3)「既卒者の成績向上」に留意すること、を目標にし、「継続は力なり」を合言葉に、国家試験対策を考えたいと思っております。私たち国家試験対策委員会は勿論最善を尽くしたいと考えておりますが、教職員の皆様のご理解、ご協力、ご叱責を是非ともお願い申し上げる次第です。また、国家試験対策についての妙案があればいつでもご提案くだされば幸いです。

### 玄番宗一教授が(社)日本薬理学会の名誉会員に推戴されました

玄番宗一先生は、大阪市立大学医学部薬理学教室助手を経て、昭和49年4月に大阪薬科大学に薬理学担当講師として着任されました。助教を経て、平成元年に教授に昇任され現在に至っております。先生は(社)日本薬理学会(会員数約6,000名)の発展に功績が顕著であったことから、平成18年3月9日に同学会総会の決議に基づき、懇親会の席上で(社)日本薬理学会名誉会員の推戴状を授与されました。

さらに、先生は、永年にわたり(社)日本腎臓学会(会員数約8,000名)の法人評議員として、日本腎臓学会の活動と発展に尽力されたことから、平成18年6月14日に日本腎臓学会の功労会員に推挙されました。



昨年度から、本公開教育講座では「くすりの作用と副作用～薬物治療における安全管理のために～」をテーマに医薬品の適正使用をめぐる様々な問題点を取り上げ、その解決策について討論してまいりました。本年度も引き続き同じテーマで開催することにし、具体的には「生活習慣病」に焦点を絞り、以下のとおり「糖尿病」「冠動脈疾患」「高脂血症」について、3回にわたって開催いたします。

### 平成18年度公開教育講座

「くすりの作用と副作用～薬物治療における安全管理のために～」

第42回 5月20日(土) 14:00～17:35

①「糖尿病と高血圧症の接点～グルコース・ストレスと高血圧～」

大阪薬科大学薬物治療学研究室教授 田中孝生 先生

②「糖尿病の治療薬と副作用～患者の常識・非常識～」

大阪市立総合医療センター 栄養部部长/代謝内分泌内科副部长 細井雅之 先生



田中先生



細井先生

第43回 7月15日(土) 14:00～17:35

①「冠動脈疾患の治療」

大阪医科大学第三内科学教室講師 河野龍而 先生

②「重大な副作用回避のために

～循環器領域における服薬説明の問題点を中心として～」

大阪薬科大学臨床薬剤学教室助教授 井尻好雄 先生

第44回 11月25日(土) 14:00～17:35

①「高脂血症治療薬の体内動態と薬物相互作用」

東京大学大学院情報学環・学際情報学府/

東京大学大学院薬学系研究科医薬品情報学講座教授 澤田康文 先生

②「高脂血症・動脈硬化の治療薬と副作用」(予定)

大阪市立大学大学院医学研究科代謝内分泌病態内科学講師 庄司哲雄 先生

開催場所：梅田スカイビルタワーウエスト  
36階 会議室L・R

## 平成18年度市民講座

第21回大阪薬科大学市民講座「健康とくすり」は5月27日(土)に本学講堂において開催されました。当日の演題が参加者の関心の高いテーマであったこと等から、参加者数は433名にものぼり、講堂は満席となりました。

第1講目は、「漢方薬の原料となる植物～漢方薬との上手なつきあい方を含めて～」と題し、大阪大谷大学薬学部漢方医療薬学講座の谿忠人教授によって、生薬・漢方薬に関する専門的な立場から、その構成生薬、効能、使用法などについて、具体例を挙げながらお話しいただきました。第2講目は、大阪医科大学薬理学教室の宮崎瑞夫教授に「高血圧になるしくみとその治療薬のしくみ」と題して、多くの人々が抱えている深刻な問題である高血

圧について、分かりやすくご説明していただきました。

講演の前後には、現役の病院・薬局薬剤師(19名)による「くすりの相談室」や、本学自慢の「薬用植物園見学会」を開催し、いずれも参加者には、大変好評でした。まさに本市民講座は高槻市に定着し、地域の方々には春と秋の恒例行事として心待ちにいただいているようで、主催者として大変嬉しく、また光栄に思います。

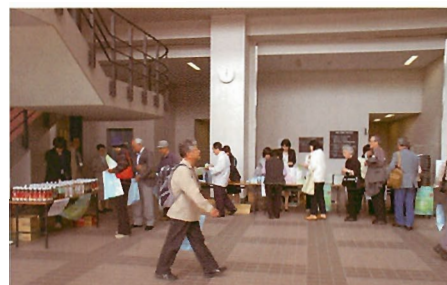
なお、次回(第22回)の市民講座は、会場を高槻現代劇場(高槻市野見町2-33)中ホールへ移し、10月28日(土)に開催を予定しています。参加者のアンケート等でも関心の高い「糖尿病」「呼吸器疾患」を中心とした演題を予定しておりますので、ご期待ください。



谿先生



宮崎先生



受付風景

平成18年度に文部科学省が募集した私立大学等研究設備整備費補助金対象に、大型共同教育研究機器として申請した下記の装置が採択されました。本年3月末までにこれらの装置はすべて共同研究センターに導入、完備され、現在、広く利用されています。

## ○微量生理活性物質の構造解析・生物影響高感度検出システム

本システムは、「高分解能質量分析装置」「ルミノ・イメージアナライザーOP」「集光型湾曲多層膜ミラー」から構成されています。本学では、これまでも多数の天然物の抽出・単離精製や有機合成を行い、それらの構造を解析してきました。その結果、多くの新規化合物を明らかにし、また、その構造上の特性を有する新規の合成化合物も数多く創製し、報告してきました。しかしながら、微量の生理活性物質については、未だ精製や解析が残されたものが数多くあります。

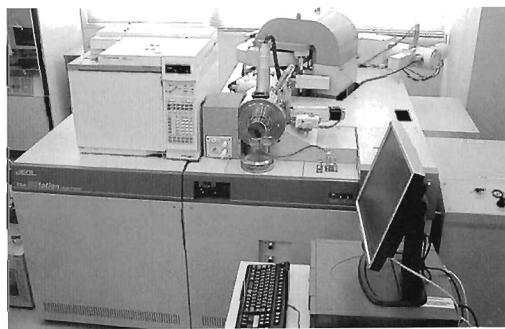
高分解能質量分析装置 (JMS-700F MStation) は、新規微量物質の構造決定に必要な装置であり、高感度で

の測定を保障する装置です。また、加速電圧10KVで質量範囲が2,400であり、高質量の測定も可能です。ルミノ・イメージアナライザーOP (LAS-3000 multi color) は、生理活性物質の生物系への応用測定に必要な装置であり、320万画素のスーパーCCDハニカムカメラを採用しています。本装置は化学発光、蛍光色素、及び色素染色の試料の画像を、同一操作で取込むことにより定量解析を行います。集光型湾曲多層膜ミラー (Montel) は、放射状に広がるX線を縦方向と横方向の両側から単色化されたX線を集光することができ、従来のグラファイトモノクロメーターに比べて、10倍以上の高輝度X線を照射することができる装置です。本装置は微小結晶の構造決定に威力を発揮します。

これらの機器を、本学で既に稼動している最新の周辺関連機器・装置と組み合わせて利用することにより、微量生理活性物質の構造解析及び新規化合物の生物活性を高感度に検出することが可能となり、今後の研究の飛躍的な進展が期待されます。



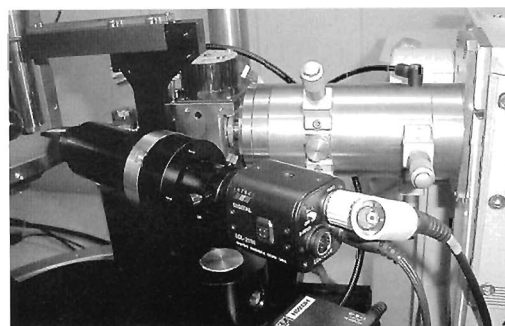
ルミノ・イメージアナライザーOP



高分解能質量分析装置



集光型湾曲多層膜ミラー



集光型湾曲多層膜ミラー (設置後)

## 共用試験とは

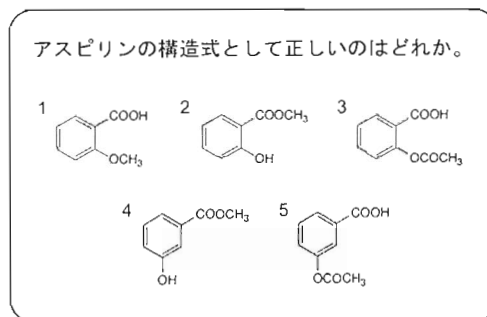
共用試験とは実務実習前に薬学科(6年制)学生を対象に行われる評価試験です。実務実習は免許を持たない学生が実際に調剤業務や服薬指導等に当たることから、薬剤師法をはじめとする医療関連法令に抵触することが懸念されます。共用試験はこのような違法性を阻却するための諸要件の一つとして行われます。言い換えると、まだ免許はもっていない「薬剤師の卵」である薬学生が、患者さんを対象に実務実習を行ってもよいレベルの『専門知識、技能、態度を十分修得していることを保証する試験』ということができます。その内容は知識・問題解決能力を評価する客観試験(Computer Based Testing: CBT)と、態度・技能を評価する客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination: OSCE)から構成されています。CBT、OSCE(「オスキー」と読みます)ともに「薬学教育モデル・コアカリキュラム」「実務実習モデル・コアカリキュラム」に準拠して行われ、その詳細は日本薬学会のホームページでも公開されています。

## CBTの概要

CBTは各大学独自の試験ではなく全国統一試験として実施されます(表1)。受験者はパソコンを使って五肢択一の問題に取り組み、正答の番号をマウスでクリックして解答します。受験時には筆記用具などは使用せず、解答時間は1問平均1分程度が想定されています。例えば、(図1)のようにCBTは基礎的な内容をシンプルに問う問題であり、内容がいくつもの領域に及ぶ複合問題は出題されません。薬剤師国家試験のような正誤の組合

(表1) CBT(300問)の出題領域と配分

ヒューマニズム、イントロダクション	10題
物理系薬学	25~30題
化学系薬学	35題
生物系薬学	35題
健康と環境	35題
薬と疾病「薬の効くプロセス」	35~40題
薬と疾病「薬物治療」	35~40題
薬と疾病「薬物治療に役立つ情報」	10~15題
医薬品をつくる	15~20題
薬学と社会	20題
実務実習事前学習	30題



(図1) CBTの問題例

せなどもなく、各問の平均正答率が80%前後になるように調整される予定です。1回の試験は(表1)のような出題内容で合計300問から構成されるので、少なくとも延べ5時間を要します。具体的な実施方法は未定ですが、(1)実施時期:薬学科4年次2~3月、(2)試験回数:本試験と追試験の2回、(3)実施場所:各大学、(4)合格基準:各大学が独自に決定(ただし公表する方向)、(5)受験料(OSCEも含む):約28,000円、などはほぼ決定しています。

## 準備状況

平成18年2~3月に各大学に共用試験用サーバーの設置が行われ、全国薬学62大学の80~90%に配備が完了しています。また、平成18年3月10日には第1回目のCBT問題提出(各大学150問)が終わり、中央のサーバーには10,000題近い問題が集積されました。平成18年中には問題が選別され、現在4年制課程に在学中の薬学生による模擬CBT(トライアル)が8月から各地で行われる予定です。

CBTを実施するためには、サーバー以外にも受験者数に相当するパソコンやそれらを配置する施設が必要になります。OSCEの施設とともに共用試験を行うための新しい施設・設備の完備にともなう負担は全国私立薬科大学にとって決して小さくはありません。また今後は、CBTの問題の作成、CBT関連作業部会への参加、トライアル参加などの負担も次第に大きくなると予想されます。平成22年のCBT開始に向けて、教員全員の協力は不可欠です。第1回目のCBT問題作成において、本学では非常に多くの教員にご協力をお願いしましたが(こう言っは失礼なのですが)、驚くほどスムーズかつ適切に全工程を終了することができました。紙面からではありませんが御礼を申し上げますとともに、関係諸氏の皆様には今後ともご協力の程をお願い致します。

新薬学教育制度（6年制）においては、5または6年次に病院・薬局での実務実習が行われます。これに先立つ4年次後期には、その準備学習としての事前学習が、さらに臨床の場で実習を受けるに相応しい基礎的な知識及び技能・態度の習得度を評価するため2種類の試験が学内で行われます。すなわち、知識評価についての試験である<sup>シーピーティー</sup>CBT [Computer Based Testing : コンピュータを用いた（多肢選択形式）試験] と、技能・態度の評価についての試験である<sup>オブジェクティブ</sup>OSCE [Objective Structured Clinical Examination : 客観的臨床能力試験] です。これら試験は全ての薬系大学が「共に用いる」標準評価システムを目指すことから「共用試験」と呼ばれます。共用試験のあり方及び具体的内容・実施方法については、共用試験実施委員会（全国薬科大学長・薬学部長会議）及びCBT問題委員会・OSCEトライアル委員会（日本薬学会薬学教育改革大学人会議）で継続して協

議・検討されており、本番実施までのスケジュールが示されつつあります。

うち、OSCEでは、6種類の課題（遭遇、薬剤調製①、薬剤調製②、調剤鑑査、無菌操作の実践、情報の提供）のための各専用ブース（ステーション）が、設備及び評価者とともに別々に配置されます。学生はこれを順に移動して課題を実施し、評価者による技能・態度の評価を受けます。これら一連の過程に要する時間は一課題につき10分が設定されています。なお、昨年度より日本薬学会によるOSCEモニトラリアル（各大学共同の教員・学生による小規模試行）が順次行われており（H17.12.24東京薬大、H18.2.27武庫川女子大）、本学もこれに積極的に参加し実施のための設備や方法を学んでいます（写真）。また、本学は新学舎でのOSCEを計画しており、その実施の利便性を考慮した新学舎の設計にも取り組んでいます。



薬剤調製



無菌操作の実践



調剤鑑査



情報の提供

OSCEのトライアルでは6つの課題をそれぞれ5分ずつ行いました。「患者接遇」では薬局の受付での患者への対応を、「薬剤の調製(1)」では軟膏剤、「薬剤の調製(2)」では散剤の調製を、「無菌操作」ではクリーンベンチの立ち上げとその清掃、そして薬剤の搬入を、「調剤鑑査」では薬袋の記載及びその中の薬剤が正しいかどうか処方せんと見比べながら声を出して指差し確認を、「情報提供」では病棟での入院患者への服薬指導を行いました。

薬剤の調製や調剤鑑査については大学での実習経験から、細かい指摘はいくつか受けたもののそつ無くこなすことができ、また無菌操作についても事前にクリーンベンチの使い方についてのビデオを何度か見ていたのではほぼ完璧にできました。しかし患者接遇、情報提供に関しては自身の短期病院実務実習が夏の予定で、そのときは実際に見学したことすらなかったために数多くの指摘を受けました。

このトライアルではただ受験者が実技試験をして終わるのではなく、その後試験官の方々からの的確なアドバイスを受けられた点が良かったと思います。また患者接遇や情報提供では患者役の方がリアルで本当の患者に接し

ているような気持ちになり実践的でありましたが、そのときの試験官の人数が予想以上に多かったため、かなりの緊張を強いられました。全体的にみて私の場合、予習はしていたものの緊張から予習したはずの内容がすっぽりと抜けて、頭が真っ白な状態でこのトライアルに臨んだので、アドバイス受けることで今まで知らなかったことを教えてもらえたのと同時に、自分に足りなかったことを反省することもできたのでかなり勉強になりました。この経験をぜひ次の夏の病院実務実習に生かしていきたいと思います。

6年制薬学部生の4年から5年への進級試験に実技試験を導入する計画が現在進行中であると聞いています。その模擬演習がこのOSCEだったわけですが、私のように過度の緊張に弱い者には、多数の目に晒されながらの試験はかなり厳しいと思いました。緊張で失敗してしまった人への救済策や、受験者から試験官が見えないように工夫を講じるなど、まだまだ改善すべき点は多々ありますが、体験した人間から言わせてもらえば、実技試験はぜひ導入するべきだと思います。後輩達にとってもきつと良い経験になることと思います。

私は、2月27日に武庫川女子大学で薬学教育6年制移行に向けてのOSCEトライアルに参加しました。私の参加した午後のトライアル会場には、大阪薬科大学、神戸薬科大学、神戸学院大学、京都薬科大学の3年次生からM2の学生までの32名の受験者が集合していました。また、全国各地から多数の大学や薬剤師の先生方が来られていました。

今回のOSCEトライアルでは、①患者接遇、②③薬剤の調製、④無菌操作、⑤調剤鑑査、⑥情報提供の6ステーションに分かれて課題を5分ずつ実施し、2名の評価者の先生により評価を受けました。課題と評価項目については「実務実習モデル・コアカリキュラム」に準拠しているということでした。

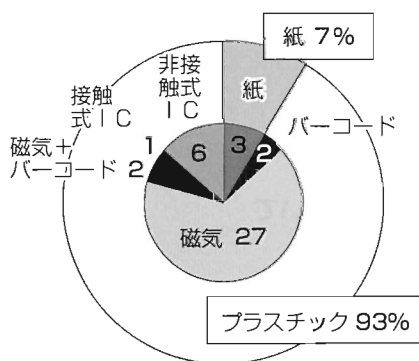
①患者接遇のステーションでは、保険薬局の受付カウンターでの初来局の患者に対する場面を想定し模擬患者へ対応することが課題で、患者接遇、情報収集、クロージング、コミュニケーションの各項目について評価されました。私は患者の訴えや不安を十分に聞き出せていないため、できるだけopen question形式のcommunication skillを身につけた方がより多くの情報を得られるとのアドバイスを受けました。②軟膏調剤のステーションでは薬袋の作成、軟膏の混合と充填について評価されました。私は十分に軟膏内の空気を抜くよう指導を受けました。③散剤では秤取

量の計算、散剤の秤量・混合が課題で、私は天秤の水平確認が不十分との指摘を受けました。④無菌操作のステーションではクリーンベンチの使用法が課題で、立ち上げ・清掃、薬剤搬入について評価されました。私はクリーンベンチを使用したことがなく戸惑いましたが、評価の時点で使用法や注意点について教えて頂きました。⑤調剤鑑査のステーションでは、薬袋・調剤薬の鑑査について自分がチェックしている内容を声に出して読むという課題でした。私は鑑査すべき内容を全て落とさず鑑査できていると評価して頂きました。⑥情報提供のステーションでは病棟での服薬指導の場面を想定して、入室時挨拶・服薬指導・コミュニケーション・退室の挨拶が課題でした。私は患者の緊張をほぐす気配りがあつたほうが良いとのアドバイスを頂きました。1時間余りで全部のステーションの課題が終了しました。

OSCEの課題を制限時間内に正確に行うためには、十分なシミュレーションやトレーニングが必要だと感じました。特にロールプレイ方式の練習は、実際の臨床現場での基礎的スキルや患者対応にとっても役立つのではないかと思います。自分の一挙手一投足を観察され評価を受けるのは初めての体験でとても緊張しましたが、指摘して頂いた内容は非常に勉強になり、今回のOSCEトライアルに参加できて本当に良かったと感じました。



本学は紙の学生証を長い間使用してきましたが、高機移転の前後から学生証のカード化がいろいろな場で話題に上がってきました。学内にはこのような要請を具体的に検討する部署はありませんでしたが、社会のIT化の波を受けて2002年に学長を委員長とする「情報化推進委員会」が開設され、その実務を行う「情報システム管理支援室」も学内に設置されました。後者は「ヘルプデスク」として学内に定着しつつあります。この委員会はネットワークなどの施設管理・運営の見直しとともに、学生証のカード化についても提案することになりました。そこで近隣の大学を調べたところ、回答頂けた41校中で学生証に紙を使用しているのはたった3校(7%)であることが判明しました(図1)。この割合を「学生数」に換算すると、総合大学では既に学生証はカード化されているため、紙媒体の割合は驚くほど小さな数字になってしまいます。実際、「他大学の学生証と比べると著しく見劣りする」という学生の声もあったようです。



(図1) 学生証の媒体と種類

最近の学生証は単なる身分証明書ではなく、ICチップを内蔵した個人情報にアクセスする「鍵」としても利用されつつあります。ICカード説明会などに参加してみると、すでに磁気カードを導入している大学でも、個人認証を前提とした学生証のIC化に向けて一斉に検討が始まっていることがよくわかります。このような動きは個人情報保護法の施行(平成17年4月1日)によって加速され、中には一部の銀行が採用している「手のひら静脈認証システム」を導入した学生証や、携帯電話に学生証としての機能を持たせた「モバイル学生証」さえ実在します。

さらに、ICカード技術の発達と普及はこの動きを後押ししています。ICカードにはいくつかの種類があり

ますが、「FeliCa」という規格がその高い安全性からJRのSUICA/ICOCA、スルッと関西のPiTaPa、おサイフケータイのEdyなどとして私たちの身の回りに急速に普及しつつあります。このため、ここ2~3年に全国でIC化される学生証のほとんどがFeliCaを搭載すると予想されます。

このような状況を踏まえて、学生部、教務部、情報化推進委員会が合同で議論を重ねた結果、薬学6年制が始まる平成18年4月からFeliCa方式のIC学生証を導入することになりました。さらに、FeliCaには個人認証以外に「少額キャッシング機能」を付加することができ、本学ではプリペイド方式のEdyを選択しました。

IC学生証の機能を使って(表1)のような学生サービスが既に開発されています。しかし、関連システムが大型であることや、複雑なため現状では本学には不向きなものもあります。従って、学生からの要望を聞きながら、各部署で本学に適したサービスかどうか検討した上で、少しずつ導入されることになると思います。今後の展開が大いに期待されます。

(表1)

FeliCa方式のIC学生証を導入した大学が行っているサービスの例

認 証	キャッシング機能
・ 出席	・ 食堂の支払い
・ 個人成績閲覧	・ コピー料金
・ 証明書などの時間外発行	・ Edy対応自動販売機
・ 選択科目登録	・ 証紙の購入
・ 図書館の入退館、貸出・返却	・ ポイント制(マイレージ)
・ 他大学における履修(コンソーシアム)	・ オープン端末プリンター課金
・ 研究施設の入退室	
・ 門、ゲート、扉などの開閉	
・ オープン端末への接続	

この学報が発行される頃には、本学最初のIC学生証をもった新生が入学しています。いつかはIC学生証で、ゲートが開き、出席を取り、自販機で飲み物を買ひ、証明書の自動発行をし、オープン端末からインターネットへアクセスが「ピッ」とできるようになる・・・かも知れません。

学内の環境パトロールは、これまで、多くは後期授業の始まる秋口に実施されてきた。しかし、今年度に限って、12月末の慌ただしい時期になり、一部では1月にずれ込んで実施されたところもあり、計画する立場から誠に申し訳なく思う。しかし、2月15日にまとめられた集計結果では、各教室及び研究室における問題点の大部分は順次改善され、昨年のパトロールで指摘された実習準備室の整理整頓も順調に行われているようである。ただ、今回のパトロールでは、研究棟1階の中央機器研究施設において、機器設置室ごとの管理責任者が明確でないところでは、調査困難と報告された。これについては、現在、共同研究センター長に改善をお願いしている。さて、話は変わるが、薬学教育6年制がスタートし、この4月には第1期生が入学し、そのため、数年後には、かなりの規模の新学舎増築を余儀なくされている。さらに、駐車・駐輪場についても大幅な拡張が必要となる。現在の限られた大学敷地内をどのように工夫して使用す

るか、近隣住宅の日照権や電波受信妨害などを考慮しつつ、有効で使い易い学内環境づくりに着手してゆきたい。また、先の学報51号においても少し触れたが、大学裏山の造成工事について、大学西南部の大和地区では、かなり長期にわたる工事が進められていた。この春、5軒分の造成工事が終了し、分譲が開始されている。さらに、大学西側の事務棟及び研究棟に面する斜面には、この造成工事で発生した土砂が積み上げられたまま、放置されており、これからの雨の多い時期にかけて、大量の土砂が砂防ダムの排水路に流れ込むことなどが予想される。本学当局からも施工業者や高槻市の担当部課あて、開発の内容確認や工事の現状についての確認が行われているものと考えているが、今後とも降雨の際には、特に注意が必要であろう。また、一時、工事が中断していたが、2、3日前から再開されている。上方の山林崩壊の危険性や雨水の排水経路などがよく考慮された工事であるか否かを確認してゆきたい。

## 「大学コンソーシアム大阪」の単位互換について

大阪府内の4年制大学を会員とする「大学コンソーシアム大阪」は、平成18年2月1日に本学をはじめ30大学の参加のもとに「単位互換に関する包括協定」を締結しました。これは、学生が受講できる講義の選択肢を拡大するためのものです。単位互換包括協定が締結されたことにより、単位互換に参加する30大学の学生は、平成18年度から、他の大学が提供する単位互換科目を履修した場合に、所属する大学の単位として認められることとなりました。

本学がオンキャンパス科目（単位互換科目を提供する各大学のキャンパスで開講される）として本年度提供する単位互換科目は、『薬用植物学（Pharmaceutical Botany）：1単位（担当教員：馬場きみ江 教授）』です。この講義の目的と概要は、「薬学を学ぶ上で必要な植物学の基礎知識の習得を目的として植物の名称、形態、分類などについて講述する。さらに自然分類による薬用植物の分属別による形態、成分、用途などの総合的特徴および代表的な薬用植物についての形態、成分、用途などについて講述する。」となっています。なお、本講義は、前期（4月10日～7月10日）の月曜日1限または2限（各10名募集）に開講されています。

私は、平成16年10月より平成17年12月までの間、アメリカ・ノースカロライナ州チャペルヒルにあるノースカロライナ大学（The University of North Carolina : UNC）チャペルヒル校の薬学部に留学する機会を与えて頂きました。この1年3ヶ月間のアメリカでの生活について振り返り、記したいと思います。

平成16年の春ごろ、翌年の9月からの留学を考え、先方の先生に連絡を取ったところ、思いがけず直ぐにでも来てもらいたいという返事を頂きました。しかし、2001年(平成13年)9月11日に起こった「同時多発テロ」以降、アメリカのビザを取得するためのチェックが厳しくなり、その手続きに時間が必要なため、その年の10月からアメリカに行くことになりました。

ノースカロライナ州は、東海岸にあり、ノースの名前から北部に位置していると思われがちですが、アメリカの中では南部の州に分類されている大西洋とアパラチア山脈に挟まれた東西に長い州で、東部コースト地区、中心部ハートランド地区、西部マウンテン地区から成ります。コースト地区は、アウトバーンと呼ばれるすばらしい海岸線を誇り、ライト兄弟が1903年に人類初の動力付飛行に成功したキティホークがあります（ノースカロライナ州の自動車ナンバープレートや運転免許証にはファーストフライトに成功したフライヤー号がデザインされています）。マウンテン地区は、グレートスモーキー国立公園があり、夏は避暑、秋は紅葉、冬はスキーに賑わい、アメリカの国立公園の中では小さい方ですが、年間の入園者数は最多です。また、個人邸宅としてはアメリカ最大のビルトモア・エステートもこの地区にあります。ハートランド地区には、UNC、デューク大学、ノースカロライナ州立大学の三つの大学を三角形の頂点にし、その中央にアメリカが世界に誇る研究学園都市、リサーチトライアングルパーク（RTP）があります。RTPには、国立環境健康科学研究所（NIEHS）、化学産業研究所を始め民間では、IBM、グラクソ・スミスクライン、日本の住友電工、大日本インキ化学工業など世界から100社を超える研究施設が広大な敷地内に集積しています。また、抗腫瘍活性を持つカンプトテシンやパクリタキセル（タキソール）を単離、構造決定を行ったWall博士とWani博士が所属している会社（RTI）もこのRTP内にあります。

大学のあるチャペルヒルは、人口約5万人で、気候は、温暖かつ四季が明瞭で梅雨がないのを除くと日本と似通

っています。また、暗くなってからも女性がジョギングできるぐらい安全で、公立学校の教育水準が非常に高い地域であるため、全米「暮らしやすい街」のトップに常時ランクインしています。

UNCチャペルヒル校は、全米最古の州立大学で、アメリカ合衆国独立直後の1789年に設立され、州内にある16校あるUNCのフラッグシップ校にあたります。スポーツでも名が通っており、バスケットボールと女子サッカーは、トップクラスです。バスケットボールで有名なMichael Jordanやオリンピック陸上金メダリストのMarion Jones、スポーツ以外でも合衆国第11代大統領James K. Polkなどの卒業生がいます。

The Old Wellは、大学のシンボルであり、新入生が一番最初の授業終了後、ここで水を飲むと卒業まで順調に進むことができるという言い伝えがある水飲み場です。

私は、薬学部のMedicinal Chemistry and Natural Products分野のNatural Products Laboratoryという研究室で台湾出身のKeenan Professor Kuo - Hsiun Lee（李 國雄）先生の下で研究を行いました（Keenan ProfessorとはUNC独自の称号で、一般の教授より1ランク上の特別教授を意味している）。

Lee教授は京都大学で大学院修士課程を修了されていることもあり、日本人研究者とのつながりが強く、1971年から数えて私が67人目の日本人研究者となりました。研究室の主な研究として、

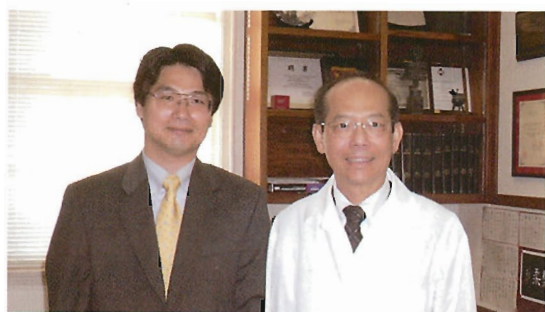
- ・植物エキスから活性成分の単離及び構造決定
- ・天然活性成分から作用の増強及びその選択性を高めることを目的とした誘導化
- ・活性成分の合成

などが行われています。研究室は、Lee教授を筆頭に助教授1名、客員教授1名、4名のポスドク、3名の博士課程の学生、2名の修士課程の学生で構成され、日本人が5名、中国人が5名のアジア人中心の研究室でした。

植物中に広く分布しているトリテルペノイドであるbetulinic acidをLee研究室で誘導化したPA-457がパナコス社によって抗HIV薬として、フェーズⅡの臨床試験が行われています。私もこの研究に参加し、betulinic acid類似のトリテルペノイドの単離とその誘導体の作製、及び種々の植物エキスより活性成分の探索を主に行いました。結果は、誘導体の作製に大変苦労したのですが、PA-457に匹敵する誘導体を現在までの

ところを得ることができませんでした。その他には、数種の植物成分について検討し、2種の新規プロカロパン誘導体と4種のアセトフェノン誘導体を単離、構造決定することができました。また、既知化合物のロテノン類に乳ガンおよび肺ガン細胞に対して強い細胞毒性を示すことを確認しました。さらに、抗HIV薬のシードになると思われる化合物を得ることができました。今後は、本学においてこの化合物の誘導化を行っていききたいと思います。

最後になりましたが、この度の貴重な留学経験の機会を与えてくださいました、理事長、学長、馬場教授を始め、諸先生方に心より厚く御礼申し上げます。この留学中に経験させて頂いたことや学んだことは、今後の本学における研究及び教育に還元していきたいと思っております。



Lee教授（写真右）と



ノースカロライナ州のナンバープレート



ビルトモア・エステート



UNCのシンボルであるThe Old Well



薬学部（Beard Hall）



Bell Tower（UNCのもう一つのシンボル）

## 1. 環境の変化と大学事務

近年、大学を巡る諸環境は急速に、かつ、大きく変化してきています。大衆化の進行とともに強まる学生のニーズの多様化や消費者意識の増大はもとより、研究面でも科学技術高度化に伴う研究活動の複雑化、国際化の実質的進展による諸業務の発生などの新たな状況が見られます。

また、18歳人口の減少は、大学経営にますます深刻な影響を及ぼしています。ここ数年、大学と受験生との立場は完全に逆転し、今や大学には、「顧客」としての受験生をいかに確保するか、また、受け入れた学生がいかに満足を与えることができるかという実質的な意味での「サービス産業」としての経営が求められています。

振り返ってみますと、これまで我が国の大学、特に薬系大学は誠に幸せな状況におかれていました。大学はいわゆる「右肩上がり」の成長産業であり続け、押し寄せる受験生を入学試験によって選別し、偏差値によって学生の潜在的能力を品質保証するという役割を、教育・研究という大学本来の目的よりも大きく果たしてきました。大学は教育・研究のテーマや質に特段の努力を払わなくとも、受験生や企業の方が勝手に大学をそのように利用してくれたので、教員には自分の好き勝手な学問に耽ることが許されてきましたし、大学経営者は政府の規制や行政指導を指針として、横並びの護送船団方式の中で大学を動かしてきました。このような中で、職員も大学の日常業務を十年一日のように処理して過ごすことが可能でした。

しかし、状況は変わってきました。社会の構造改革や経済のグローバル化が進行する中で、終身雇用制度は揺らぎ、学生には潜在能力ではなく、今何ができるかということが問われるようになってきました。能力のリフレッシュを図るために大学に戻ってくる社会人学生も増えてきています。当然、大学での教育の中身が重要になってきます。受験生が減少する中で、「我が大学の教育の特色や有用性」を受験生や社会に積極的にアピールする必要が強まっています。

## 2. 職員の役割変化

これまで、教育・研究の実施者である教員と、それに付き合う職員との間には、大きな溝がありました。職員という立場から見ると、教員の指示を一方向的に受けざるを得ない「従属的な立場」か、さもなければ教員の活動を学内外の規則に照らして事細かにチェックする「管理的立場」のどちらかしかありませんでした。

しかし、これからの大学には教員と「協働的關係」の立場で仕事ができる良きパートナーとしての人材が必要になります。そうでなければ、今後ますます複雑化、高度化する大学経営は早晚支えられなくなります。そのような人材は、現在の教員でも職員でもない第三のカテゴリーの人材、すなわち「アドミニストレーター」と言わ

れるものですが、当面は職員の側からその多くを輩出しなければなりません。なぜなら、大学の教員にとって逃れがたい専門領域や研究仲間との関わり合いから自由にかつ公平に振る舞うことのできるのは職員だからです。教員は大学の「知」を担っていますが、一貫して大学全体の問題、管理運営に関わっているのは事務局職員です。

## 3. 職員にとってこれから必要なこと

大学が21世紀知識社会において、国内外で激しい競争時代を生き残るためには、大学を支える経営人材の質の良否が決定的意味を持ちます。そして、大学職員には次のような資質が求められています。

第一に、目先の仕事の処理だけでなく、中長期的課題についても考えられる能力を身につけることです。つまり、今日の高等教育を巡る環境の変化やその難しさを知識社会の本質や少子化の現実との関わりで正しく捉えられる能力です。知識社会も少子化も、中長期的社会変化であり、大学経営にとって構造的要因であります。この構造的要因にどのように対処するかを考えられる職員でありたいものです。専門性を磨き、それを越えて「ゼネラリスト」になり、理事長や学長など大学のトップレベルの意思決定者を助ける人材になることを志す必要があります。

第二に、教育の工夫改善を始めとする学生サービスの向上を正しく捉えられる能力です。そのためには自分の勤務する大学でどのような教育内容が提供されているかを知る必要があります。教育内容を知るためには、一定レベルの専門知識も必要です。企業の営業活動にとってその企業の取り扱う商品に関する知識が必要不可欠であることを思い起こしてください。売るべき商品の中身を知らないで、顧客に向かい合える営業社員はいらっしゃいますか。

第三に、職員は常に新しい事務分野に興味を持ち続けることです。未経験なことに関わりたくないというのはその人の成長が止まり、生活が守りの姿勢に入っていることを意味します。向上を目指す職員であれば、未経験な事務分野であってもそれを学ぼう、研究しようという積極的な態度が必要です。

大学職員、特に私立大学職員は隠れた人気職種であるという話をしばしば耳にします。職員募集に何十倍もの応募者が殺到します。それは企業に比べて休暇が多い、給与水準も悪くないなど生活面での充実が図りやすいという俗説がまかり通っているからでしょう。いわゆる「安定した職場」であるとの印象があります。しかし、このいずれもが、かつての大学を前提にした職員観であり、これからのダイナミックな経営環境に直面する時、安定志向の職員だけでは大学は成り立っていかないでしょう。

## ■平成17年度決算

学校法人大阪薬科大学の平成17年度決算については、平成18年5月25日（木）に開催された理事会及び評議員会において承認されましたので、「資金収支計算書」「消費収支計算書」「貸借対照表」「財産目録」（各総括表）を掲載し、その概要を説明します。

### （資金収支計算書）

主な収入源である学生生徒等納付金収入が、在籍学生数増により、予算を1億3,839万円上回りました。また、主な支出源である人件費支出が、予算を7,160万円下回りました。その結果、次年度繰越支払資金は23億464万円となりました。

### （消費収支計算書）

平成17年度の消費収支は、予算より改善され、消費収入超過額は1,993万円であり、翌年度繰越消費収入超過額は9億9,063万円となりました。

### （貸借対照表）

平成17年度資産総額は、16年度に比して2億3,060万円増加し、221億4,070万円となりました。負債総額は借入金元金の減少等から、16年度に比して3億8,576万円減少し、40億487万円となりました。

## ■平成18年度予算

学校法人大阪薬科大学の平成18年度予算については、理事会の予算編成方針に基づき、予算委員会の審議を経て編成を行いました。平成18年3月23日（木）に開催された理事会及び評議員会において承認されましたので、「資金収支予算書」「消費収支予算書」（各総括表）を掲載し、資金収支科目を中心に、その概要を説明します。

### （総括）

平成18年度の収入予算総額（収入の部合計-前年度繰越支払資金）は35億6,850万円、支出予算総額（支出の部合計-次年度繰越支払資金）は33億5,460万円であり、差引き2億1,390万円の収入超過となります。

## <収入の部>

### （学生生徒等納付金収入）

学部新入生は入学定員（300名）として予算編成し、授業料16億200万円、入学金1億2,970万円、施設設備費7億5,060万円他を計上しました。

### （補助金収入）

私立大学経常費補助金2億6,400万円、施設整備費補助金2,500万円他を計上しました。

### （資産売却収入）

新堂校地80坪の幸福町会への売却分1,300万円を計上しました。

### （事業収入）

附属薬局の収入予算4億7,900万円他を計上しました。

## <支出の部>

### （人件費支出）

教職員人件費は新採用、昇任人事、雇用保険加入分を含め9億6,890万円、事務職員人件費は附属薬局分を含め4億6,110万円、退職金は9,610万円他を計上しました。

### （教育研究経費支出）

大阪薬科大学奨学金（特待奨学金・一般奨学金）590万円、紀要400万円、一般事務アウトソーシング（学内ネット等管理を含む）1,935万円、図書システム更新費（備品を除く）1,060万円、研究棟（動物関連研究施設、RI研究施設他）関係の修理費570万円他を計上しました。

### （管理経費支出）

一般事務アウトソーシング1,175万円、附属薬局の物件費4億3,120万円他を計上しました。

### （その他の支出）

大阪薬科大学奨学金貸付金（一般奨学金）700万円他を計上しました。

## 資金収支計算書（総括表）

（単位：千円）

収入の部			
科 目	平成17年度予算	平成17年度決算	平成18年度予算
学生生徒等納付金収入	2,468,000	2,606,390	2,485,600
手数料収入	111,200	101,360	81,200
寄付金収入	16,000	20,480	15,000
補助金収入	274,300	313,064	292,100
資産運用収入	30,000	59,017	40,000
資産売却収入	16,500	1,737,145	13,000
事業収入	434,000	485,588	485,500
雑収入	107,800	97,633	83,100
前受金収入	412,000	554,550	412,000
その他の収入	145,500	499,580	258,900
資金収支調整勘定	△ 599,500	△ 763,066	△ 597,900
前年度繰越支払資金	2,296,000	2,237,070	2,413,600
収入の部合計	5,711,800	7,948,811	5,982,100

支出の部			
科 目	平成17年度予算	平成17年度決算	平成18年度予算
人件費支出	1,546,500	1,474,894	1,548,100
教育研究経費支出	560,000	538,898	566,900
管理経費支出	499,200	511,668	527,000
借入金等利息支出	133,400	133,369	116,400
借入金等返済支出	344,500	344,430	344,500
施設関係支出	1,000	2,344	500
設備関係支出	180,900	215,648	183,600
資産運用支出	20,000	2,389,317	1,300
その他の支出	186,400	189,601	196,500
[予備費]	20,000	0	40,000
資金支出調整勘定	△ 163,400	△ 156,002	△ 170,200
次年度繰越支払資金	2,383,300	2,304,644	2,627,500
支出の部合計	5,711,800	7,948,811	5,982,100

## 消費収支計算書（総括表）

（単位：千円）

消費収入の部			
科 目	平成17年度予算	平成17年度決算	平成18年度予算
学生生徒等納付金	2,468,000	2,606,390	2,485,600
手数料	111,200	101,360	81,200
寄付金	16,000	25,303	15,000
補助金	274,300	313,064	292,100
資産運用収入	30,000	59,017	40,000
資産売却差額	15,800	16,301	12,400
事業収入	434,000	485,588	485,500
雑収入	107,800	97,633	83,100
帰属収入合計	3,457,100	3,704,656	3,494,900
基本金組入額合計	△ 544,300	△ 596,431	△ 275,400
消費収入の部合計	2,912,800	3,108,225	3,219,500

消費支出の部			
科 目	平成17年度予算	平成17年度決算	平成18年度予算
人件費	1,516,100	1,450,977	1,510,400
教育研究経費	955,500	936,705	955,200
管理経費	538,200	555,619	563,100
借入金等利息	133,400	133,370	116,400
資産処分差額	0	11,614	0
徴収不能額	0	2	0
[予備費]	20,000	0	40,000
消費支出の部合計	3,163,200	3,088,287	3,185,100
当年度消費収入超過額	-	19,938	34,400
当年度消費支出超過額	250,400	-	-
前年度繰越消費収入超過額	922,300	970,695	989,600
翌年度繰越消費収入超過額	671,900	990,633	1,024,000

## 貸借対照表（総括表）

（単位：千円）

資産の部		
科 目	平成16年度末	平成17年度末
固定資産	18,698,799	19,068,246
有形固定資産	15,795,741	15,585,362
その他の固定資産	2,903,058	3,482,884
流動資産	3,211,304	3,072,458
資産の部合計	21,910,103	22,140,704

負債の部		
科 目	平成16年度末	平成17年度末
固定負債	3,341,576	2,973,228
流動負債	1,049,063	1,031,643
負債の部合計	4,390,639	4,004,871

基本金の部		
第1号基本金	16,347,769	16,874,200
第3号基本金	-	70,000
第4号基本金	201,000	201,000
基本金の部合計	16,548,769	17,145,200

## 財産目録（総括表）

（単位：千円）

財産目録（平成17年度末）		
資産の部	基本財産	15,599,149
	運用財産	6,541,555
	資産合計	22,140,704
負債の部	固定負債	3,317,658
	流動負債	687,213
	負債合計	4,004,871
差引正味財産		18,135,833

消費収支差額の部		
翌年度繰越消費収入超過額	970,695	990,633
消費収支差額の部合計	970,695	990,633
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	21,910,103	22,140,704

# 総務課だより

## ■ 人 事

### <大学関係>

#### 採 用 (平成18年2月1日付)

附属薬局薬局長 (管理薬剤師)  
真下 博孝 (嘱託職員)

(平成18年4月1日付)

教 授 荒川 行生  
助 授 井尻 好雄  
講 師 恩田 光子  
図書課長 後久 忠雄 (嘱託)  
特別研修薬剤師 長谷川聡司

#### 退 職 (平成18年3月31日付)

教 授 池田 潔 (定年)  
教 授 玄番 宗一 (定年)  
教 授 坂田 勝治 (定年)  
教 授 赤木 昌夫 (定年)  
講 師 廣谷 芳彦  
用 務 員 喜村留美子 (定年)  
(平成18年6月30日付)  
薬 剤 師 片岡絵里子

#### 昇 任 (平成18年4月1日付)

教 授 藤田 芳一  
教 授 濱中久美子  
教 授 松島 哲久  
教 授 藤本 陽子  
教 授 土井 光暢  
教 授 田中 麗子  
教 授 高岡 昌徳  
教 授 浦田 秀仁  
講 師 佐久間 覚  
講 師 宇佐美吉英  
講 師 坂口 実  
講 師 藤井 忍  
講 師 岩永 一範  
講 師 芝野真喜雄  
講 師 山田 剛司  
講 師 和田 俊一  
講 師 宮崎 誠  
事務局次長 高橋 正好 (入試・広報課長兼務)

課長補佐 増家 博 (入試・広報課係長)  
課長補佐 村田 祐子 (学生課係長)  
課長補佐 讃木真理子 (教務課係長)  
係 長 塚田ひろみ (就職課主任)  
係 長 齋藤 貴博 (学生課主任)  
係 長 鶴田 政樹 (入試・広報課主任)  
係 長 小谷川洋子 (総務課主任)  
主 任 鶴殿 千晶 (経理課員)  
主 任 川崎 香子 (附属薬局事務職員)  
主 任 藤原 昭男 (施設課員)  
(平成18年6月1日付)  
課長補佐 三角 智津 (総務課係長)

#### 併 任 (平成18年1月19日付)

大学院博士後期課程担当教員 三野 芳紀 (助教授)  
(平成18年2月1日付)

機能分子科学部門長 赤木 昌夫 (教授)  
分子薬科学部門長 木村捷二郎 (教授)  
生命薬科学部門長 天野富美夫 (教授)  
(平成18年3月13日付)

臨床薬学教育研究群長 田中 一彦 (教授)  
(平成18年4月1日付)

就職部長 田中 一彦 (教授)  
図書館長 石田 寿昌 (教授)  
研究委員長 辻坊 裕 (教授)  
(平成18年4月10日付)

大学院博士後期課程担当教員 井尻 好雄 (助教授)  
大学院博士前期課程担当教員 荒川 行生 (教 授)  
大学院博士前期課程担当教員 佐久間 覚 (講 師)  
大学院博士前期課程担当教員 宇佐美吉英 (講 師)  
大学院博士前期課程担当教員 坂口 実 (講 師)  
大学院博士前期課程担当教員 藤井 忍 (講 師)  
大学院博士前期課程担当教員 岩永 一範 (講 師)  
大学院博士前期課程担当教員 芝野真喜雄 (講 師)  
大学院博士前期課程担当教員 山田 剛司 (講 師)  
大学院博士前期課程担当教員 和田 俊一 (講 師)  
大学院博士前期課程担当教員 宮崎 誠 (講 師)  
大学院博士前期課程指導教員 河合 悦子 (助 手)  
(平成18年6月1日付)

機能分子科学部門長 浦田 秀仁 (教授)



**退任** (平成18年1月31日付)

中元 安雄 (附属薬局管理薬剤師)

**配置換え** (平成18年6月1日付)

総務課長兼務 高橋 正好 事務局次長  
(入試・広報課長兼務)

入試・広報課長 秋月 延夫 (総務課長)

教務課長 藤田 純生 (学生課長)

学生課長 古本 浩三 (教務課長)

**委嘱** (平成18年4月1日付)

教授 池田 潔 (嘱託)

教授 玄番 宗一 (嘱託)

教授 坂田 勝治 (嘱託)

客員助手 西 義則

用務員 神田 実 (嘱託)

用務員 喜村留美子 (嘱託)

校医 柚木 孝士 (非常勤)

学生相談室相談員 岡 鈴佳 (非常勤)

(平成18年5月15日付)

学生相談室顧問 米田 博 (非常勤)

**解嘱** (平成18年3月31日付)

教授 松村 瑛子 (嘱託)

技術職員 高橋 勉 (特別嘱託・薬用植物園)

**招へい教授** (平成18年4月1日付)

濱 六郎 (客員研究員)

中川 照眞 (客員研究員)

**非常勤講師** (平成18年4月1日付)

**[学部]**

伊藤 信也 (人間と文化5a、人間と文化4b)

井上 正康 (臨床生化学)

井原美保子 (看護学総論)

後藤 祐児 (蛋白質機能学)

小松 敏彦 (健康科学演習)

谷口 智美 (フランス語2)

鶴 真一 (フランス語4)

土居 俊平 (人間と文化1a)

戸田 有一 (人間と文化1b、人間と文化5a)

中川 俊正 (病原微生物学)

永田 誠 (数学1)

中村 恵 (ドイツ語1、ドイツ語2、ドイツ語4、人間と文化5a)

中村 益久 (毒性学)

橋口 雅美 (健康科学演習)

林 恭平 (医療統計学)

樋口 久 (英語1)

樹矢 桂一 (ドイツ語1、ドイツ語2、人間と文化5a)

山下 一道 (人間と文化4a、人間と文化5a)

吉田龍太郎 (分子免疫学)

米田 孝司 (臨床検査総論)

Joseph Michael Jacobs (英語3)

Judith Lynn Ritter (英語3)

宮田 真希 (健康科学演習) (非常勤助手)

門川 裕美 (健康科学演習) (非常勤助手)

**[大学院]**

上野 和行 (臨床医学Ⅲ (臨床薬理学Ⅱ))

中出 進 (臨床薬物動態学Ⅱ)

濱 六郎 (薬剤疫学)

林 敬次 (病態生理学Ⅰ)

藤田 讓 (臨床心理学)

三浦 克之 (薬効安全性学 (医療薬学Ⅱ))

光木 徹 (臨床医学Ⅱ)

**客員研究員** (平成18年4月1日付)

濱 六郎

中川 照眞

**<法人関係>**

**理事・評議員退任** (平成18年3月31日付)

池田 潔

**理事就任** (平成18年4月1日付)

千熊 正彦

**評議員就任** (平成18年4月1日付)

田中 一彦

(平成18年5月1日付)

肥塚 敏彰

## ■ 学位記授与式

平成18年3月18日(土)午前10時30分より体育館において、平成17年度大阪薬科大学学位記授与式(学部270名、大学院博士前期(修士)課程51名、大学院博士後期(博士)課程2名)が来賓・保護者多数参列のもとに挙行されました。



## ■ 同窓会賞の贈呈

学部卒業生のうち、各学科の成績最優秀者(薬学科 玉木千尋、製薬学科 杉野洋子)に対し、本学同窓会から表彰状と副賞が贈呈されました。



## ■ 入学式

平成18年4月4日(火)午前10時30分より体育館において、平成18年度大阪薬科大学入学式(学部321名、大学院博士前期(修士)課程63名・大学院博士後期(博士)課程1名)が来賓・保護者多数参列のもとに挙行されました。



## ■ 大阪薬科大学創立百周年記念樹披露式

平成18年5月13日(土)午前10時30分より講義・実習棟エントランスホールにおいて、大阪薬科大学創立百周年記念樹披露式が関係者参列のもとに挙行されました。

## ■ 海外出張

松村 靖夫 教授(病態分子薬理学研究室)

<出張期間:平成18年1月22日~1月29日>

国際学会(高齢者のための健康食品)における研究発表(オランダ)

玄番 宗一 教授(生命薬科学研究室)

<出張期間:平成18年6月17日~6月22日>

第4回アジアトキシコロジー国際会議(中国)

## ■ 海外留学

芝野 真喜雄 講師(生薬科学教室)

<留学期間:平成18年4月23日~平成19年4月22日>

ノースカロライナ大学(アメリカ)

## ■ 慶弔

<訃報>

水川 孝 元評議員(平成18年5月22日逝去)

山下一道 非常勤講師(平成18年6月6日逝去)

## ■ 寄付・寄贈

・本学教育研究活動への寄付金(100万円)  
(バイオフェルミン製薬株式会社より、平成18年3月29日付)

・本学グラウンドに屋外ベンチ8台(76万円)を寄贈  
(育友会より、平成18年3月10日付)

・平成17年度大阪薬科大学同窓会研究助成金(50万円)  
幸田 祐佳(薬理学教室 助手)  
研究題目「急性腎不全の発症におけるシグナル伝達分子および疾患関連タンパク質の解析」(大阪薬科大学同窓会より)

## 平成18年度 科学研究費補助金採択状況

区分	職名	氏名	研究種目	研究課題	配分額(千円)
継 続	助教授	春沢 信哉	基盤研究 (C)	RNA触媒及びH4受容体機能解明のためのイミダゾールC-ヌクレオシドの合成研究	700
	教 授	千熊 正彦	基盤研究 (C)	ヒドロキシ架橋型制がん活性白金複核錯体の新奇反応に関する研究	500
	教 授	石田 寿昌	基盤研究 (C)	タウ蛋白質の自己凝集機構の解明：痴呆治療薬開発のための基盤研究	1,000
	教 授	松村 靖夫	基盤研究 (C)	肺高血圧症の発症・進展機構におけるエンドセリン-1の役割と性差	500
	助教授	大桃 善朗	基盤研究 (C)	シグマレセプターを標的とする癌の分子イメージング画像診断剤の開発に関する研究	900
	助 手	箕浦 理佐	若手研究 (B)	RNA触媒における擬核酸塩基としてのイミダゾールC-ヌクレオシドの機能	900
	客員教授	小林 祐次	特定領域研究	アディポネクチンの超分子構造・相互作用	3,200
	新 規	教 授	掛見 正郎	基盤研究 (C)	メカニズムに基づいたPK-PD解析モデルによる医薬品の最適投与設計
教 授		天野富美夫	基盤研究 (C)	新規病原因子SE p22のサルモネラ腸管透過性の調節による病原性発現機構の解析	2,100
講 師		藤井 忍	基盤研究 (C)	スフィンゴミエリナーゼの触媒および基質認識機構の解明	2,200
講 師		友尾 幸司	基盤研究 (C)	新規抗ガン剤の開発を目指した翻訳開始因子4Eの機能調節機構の解明	1,800
講 師		和田 俊一	基盤研究 (C)	遺伝子治療を目指したA i b含有ペプチドのベクターとしての可能性	2,400
客員助手		西 義則	若手研究 (B)	分子間相互作用におけるエントロピーの寄与に注目したドラッグデザイン	2,300
研究分担 (金沢大学)		助教授	大桃 善朗	基盤研究 (B)	シグナル伝達を指標にした分子イメージングによる癌分子標的薬剤治療効果予測法の開発
研究分担 (聖マリアナ 医科大学)	講 師	友尾 幸司	基盤研究 (C)	ポテウイルス発現タンパク質の病原性決定機構の解明	400
合 計		15件			21,500

# 入試・広報課だより

## ■平成18年度 入試結果

入試種別	AO入試 (A方式)			公募制推薦入試 (S方式)			センター試験利用入試 (C方式)			一般入試 I (F方式)		
	募集人員	10		60			30			100		
性別	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
志願者	第一次選考 17	第一次選考 17	第一次選考 34	103	255	358	257	363	620	246	347	593
受験者	第一次選考 17	第一次選考 17	第一次選考 34	102	254	356	257	363	620	241	333	574
合格者	第二次選考 5	第二次選考 3	第二次選考 8	24	88	112	85	131	216	117	185	302
入学者	5	3	8	14	43	57	4	5	9	44	58	102

※第一次選考は書類審査・適性確認  
※第二次選考は模擬講義・面接

## ■平成19年度 入試概要

入試種別	公募制推薦入試 (S方式)	指定校制推薦入試 (R方式)	センター試験利用入試 (C方式)	一般入試 I (F方式)
募集人員	60名	50名	20名	75名
出願開始日	平成18年11月 1日(水)	平成18年11月 1日(水)	平成19年 1月 5日(金)	平成19年 1月 5日(金)
出願締切日	平成18年11月 7日(火)消印有効 平成18年11月 8日(水)のみ持参可	平成18年11月 7日(火)消印有効 平成18年11月 8日(水)のみ持参可	平成19年 1月17日(水)消印有効	平成19年 1月23日(火)消印有効 平成19年 1月24日(水)のみ持参可
入学試験日	平成18年11月11日(土)	平成18年11月18日(土)	平成19年 1月20日(土) 平成19年 1月21日(日)	平成19年 2月 1日(木)
合格発表日	平成18年11月22日(水)	平成18年11月22日(水)	平成19年 2月16日(金)	平成19年 2月 7日(水)
入学手続締切日	1次 平成18年12月 8日(金) (2段階方式) 2次 平成18年12月22日(金)	平成18年12月13日(水) (一括方式)	1次 平成19年 2月23日(金) (2段階方式) 2次 平成19年 3月23日(金)	1次 平成19年 2月14日(水) (2段階方式) 2次 平成19年 3月23日(金)
試験場	本学	本学		本学・駿台予備学校大阪南校・ 広島国際会議場・高松商工会議所会館
選考内容 (時間・配点)	[調査書] 150点 (理科、外国語の評定平均値 各25点、 数学、全体の評定平均値 各50点) 適性確認 [理 科] 75分 150点 化学Ⅰ、生物Ⅰ から1科目を選択する [外国語] 60分 100点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング	[推薦書] [調査書] 全体の評定平均値が3.7 以上の者 理科は、「化学」を履修し ている者 [面接]	センター試験利用科目 [理 科] 200点 化学Ⅰ、生物Ⅰ、物理Ⅰ のうち最高得点科目を採用 し、それを2倍する [外国語] 200点 英語(リスニングを含む) ※記述式(200点満点)と リスニング (50点満点)の合計得点 を200点 満点に換算する [数 学] 100点 数学Ⅰ・数学A 100点 数学Ⅱ・数学B 100点 本学の個別学力検査等は実施しない	[理 科] 90分 100点 化学(化学Ⅰ、化学Ⅱ[選択科目を含む]) 生物(生物Ⅰ、生物Ⅱ[選択科目を含む]) から1科目を選択する [外国語] 75分 75点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング [数 学] 75分 75点 数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学A 数学B(数列、ベクトル) [調査書] 150点 (理科、外国語、数学の評定平均値 各25点、 全体の評定平均値 75点)
判 定	適性確認等及び 提出書類を総合して判定する	面接の結果及び 提出書類を総合して判定する	センター試験の成績及び 提出書類を総合して判定する	学力試験等及び 提出書類を総合して判定する
入学検定料	35,000円	35,000円	20,000円	35,000円
備 考	現役に限る	専願制/現役に限る		旧課程履修者に対する経過措置は 行わない

入試種別	一般入試Ⅱ (G方式)			帰国生徒特別選抜入試 (K方式)			合 計		
	募集人員	男	女	計	男	女	計	男	女
募集人員	100			若干			300		
性 別	男	女	計	男	女	計	男	女	計
志 願 者	505	608	1,113	0	0	0	1,128	1,590	2,718
受 験 者	437	506	943	0	0	0	1,054	1,473	2,527
合 格 者	161	187	348	0	0	0	392	594	986
入 学 者	72	73	145	0	0	0	139	182	321

入試種別	一般入試Ⅱ (G方式)	帰国生徒特別選抜入試 (K方式)	編入試 (H方式)
募集人員	90名	若干名	5名
出願開始日	平成19年1月5日(金)	平成18年10月26日(木)	平成19年8月 実施予定
出願締切日	平成19年2月2日(金)消印有効 平成19年2月3日(土)のみ持参可	平成18年11月2日(木)消印有効	
入学試験日	平成19年2月9日(金)	平成18年11月11日(土)	
合格発表日	平成19年2月16日(金)	平成18年11月22日(水)	
入学手続締切日	1次 平成19年2月23日(金) (2段階方式) 2次 平成19年3月23日(金)	1次 平成18年12月8日(金) (2段階方式) 2次 平成18年12月22日(金)	
試 験 場	本 学・駿台予備学校大阪南校	本 学	
選考内容 (時間・配点)	[理 科] 90分 100点 化学(化学Ⅰ、化学Ⅱ(選択分野を含む)) 生物(生物Ⅰ、生物Ⅱ(選択分野を含む)) から1科目を選択する [外国語] 90分 100点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング [数 学] 90分 100点 数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学A 数学B(数列、ベクトル)	適性確認 [理 科] 75分 150点 化学Ⅰ、生物Ⅰ から1科目を選択する [外国語] 60分 100点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング [面 接] 学習意欲、日本語能力を 確認する 薬学を修める上で必要な 分野を試問する	[英 語] 45分 50点 [数 学] 45分 50点 [基礎物理化学] 60分 100点 [基礎有機化学] 60分 100点 [基礎生物学] 60分 100点 面接 予 定
判 定	学力試験及び 提出書類を総合して判定する	適性確認、面接の結果及び 提出書類を総合して判定する	学力試験、面接の結果及び 提出書類を総合して判定する
入学検定料	35,000円	35,000円	35,000円
備 考	旧課程履修者に対する経過措置は 行わない		2年次後期に編入



## ◆オープンキャンパス2006◆

本年度のオープンキャンパスは、7月29日(土)、30日(日)、8月19日(土)の3回開催することとなりました。3日間共通の内容で、進学説明、模擬実験、学内見学、個別相談などを中心に行われ、参加者には、大学資料、入試ガイド、入試問題集(解答、解説付)のほか、本学オリジナルグッズをプレゼントいたします。本年度は、JR摂津富田駅より、大学への無料直行バスも運行(11:00・11:20・11:40・12:00・12:20・12:40・13:00)されます。参加申込みは不要ですので、直接大学までお越しください。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

## 「健康たかつき21活動展示会」に参加して

高槻市では、健康増進法(平成15年5月施行)に基づく健康増進計画として平成16年9月に「健康たかつき21」を策定し、平成22年度末までの7年計画として推進しています。

この計画は、市民一人ひとりが、自らの重点課題を考え選択できるよう6つのライフステージと「栄養・食生活」「身体活動・運動」「休養・こころの健康づくり」など7つの分野に分けて健康づくりのための行動指針と目標値を具体的に定め、生涯を通じて健康づくりを実践しやすいようにしています。

この計画を幅広くかつ効果的に推進するため、家庭、地域、職域、保健医療専門家、医療保険者、教育関係機関、ボランティア・NPO、マスメディア、行政等が相互に連携し、市民一人ひとりの健康づくりを支援する体制のもとで進める必要性から、計画の推進母体として、平成17年7月に「健康たかつき21推進ネットワーク会議」が設立されました。

平成18年2月10日(金)に、これまでの活動の集大成としてネットワーク活動をより多くの市民に周知するため、「健康たかつき21」第2回シンポジウム(高槻市立生涯学習センター2階多目的ホール)が開催されました。また、同時に同会場1階展示ホールにおいて企業、大学、医師会、薬剤師会等による健康相談やパネルを中心とした健康関連の展示会が開催され、本学も「健康・医療にかかわる大学」として、同展示会に参加しました。

当日は、本学を市民の方々に幅広く分かりやすくアピールするため、見学者用の大パネル(1.8×2.0m)の掲示や「大学案内2006」の配付、個別相談者への大学概要説明などを行い、参加者から好評を得ることができました。

なお、参加者は健康に関心のある高齢者の方が多く、大半はシンポジウムの参加者でした。

今後も「社会に開かれた大学」として、本展示会への参加を継続し、一般市民に対して本学をアピールしていくことが重要であると改めて認識しました。



# 経理課だより

## 平成19年度 納付金一覧について

### 薬学部 納付金 [薬学科(6年制課程)・薬科学科(4年制課程)共通]

区 分	初 年 度		
	前 期	後 期	計
入 学 金	400,000円	—	400,000円
学 費	授 業 料	600,000円	1,200,000円
	施設・設備費	300,000円	600,000円
計	1,300,000円	900,000円	2,200,000円

※薬学科(6年制課程)では、5年次以降、実習費を徴収することがあります。

※学友会および育友会から徴収を委託されている納付金として、学友会入会金1,000円(初年度前期のみ)、学友会費5,000円(年額)および育友会費18,000円(年額)があります。

なお、学友会とは本学学生で構成される自治団体、育友会とは本学学生の父母もしくはこれに準ずる者で構成される団体です。

### 大学院 納付金

区 分	初 年 度		
	前 期	後 期	計
入 学 金	他大学卒業生	—	300,000円
	本学卒業生	—	150,000円
授 業 料	推薦入学生・ 一般入学生	400,000円	800,000円
	推薦入学生	300,000円	600,000円

※学外で研修等を実施する場合、別途費用を徴収することがあります。

※育友会から徴収を委託されている納付金として、育友会費18,000円(年額)があります。

## 学費納付書の送付について

学費納付書は、毎年、前期分は4月初旬に、後期分は10月初旬にご自宅へ郵送しています。納付期日は、次のとおりです。

前期分学費	4月16日から 4月30日
後期分学費	10月16日から10月30日

なお、納付金を滞納し、督促を受けても所定期日までに納付しない者は除籍となります(大阪薬科大学学則第17条)ので、ご留意ください。納付が遅れる特別な事情がある方は、大学(学生課)に事前にご連絡ください。

# 学生課だより

## ○ 平成18年度 学友会執行委員会

執行委員長 橋本 智之 (柔道部)  
 副執行委員長 谷口 慶樹 (フィールドウォーカーズ部)  
 総務局長 三橋 慶子 (硬式庭球部)  
 厚生局長 城阪 郁江 (バレーボール部)  
 広報渉外局長 伊ヶ崎由香 (ソフトテニス部)  
 体育局長 若井 崇昌 (硬式野球部)  
 文化局長 林 恵理子 (弓道部)

## ○ 平成18年度 大葉祭実行委員会

実行委員長 山田 雅貴 (硬式野球部)  
 副実行委員長 福島さやか (剣道部)  
 総務部長 三橋 慶子 (硬式庭球部)  
 イベント部長 氏平猪一郎 (ラグビー部)  
 リサイクル部長 廣瀬 翔 (バレーボール部)  
 装飾部長 川上由莉恵 (フォークソング部)  
 渉外部長 河本 尚紀 (柔道部)  
 渉内部長 重田 僚子 (コーラス部)

## ○ 大葉祭「飛翔」を開催します

本年度の大葉祭は、「飛翔」をテーマに、平成18年10月27日(金)～29日(日)の日程で開催いたします。当日は、文化系クラブの発表会を中心に、大葉祭の定番となっている「薔薇祭」や、フリーマーケットなど様々なイベントを行う予定です。学生達の楽しい企画にご期待ください。

## 平成18年度学生定期健康診断受診状況

(4月6日、7日、11日、17日) ※全項目受診者数

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	M1	M2	D1	D2	D3	総計
男	139 141	95 142	94 110	93 111	29 29	20 26	1 31	3 3	1 1	475 564
女	182 187	118 196	177 194	196 222	34 34	23 29	/	1 1	/	731 863
計	321 328	213 338	271 304	289 333	63 63	43 55	1 1	4 4	1 1	1,206 1,427
受診率	97.9% (98.2)	63.0% (69.1)	89.1% (76.7)	86.8% (84.8)	100% (93.5)	78.2% (94.1)	100% (100)	100% (-)	100% (100)	84.5% (83.5)

〈 〉内は平成17年度

\*結核予防法改正に伴い、「胸部X-P撮影」は学部・大学院とも新入生のみ必須受診項目、他の学年は任意受診項目に変更。

## 平成18年度胸部X線受診状況 (間接/直接撮影)

(4月6日、7日、11日、17日)

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	M1	M2	D1	D2	D3	総計	職員
男	139 141	94 142	95 110	93 111	29 29	20 26	1 1	3 3	1 1	475 564	55 81
女	182 187	66 196	177 194	196 222	34 34	22 29	/	1 1	/	678 863	15 31
計	321 328	160 338	272 304	289 333	63 63	42 55	1 1	4 4	1 1	1,153 1,427	70 112
受診率	97.9% (98.2)	47.3% (74.3)	89.5% (77.6)	86.8% (85.7)	100% (93.5)	76.4% (98.0)	100% (100)	100% (-)	100% (100)	80.8% (85.2)	62.5% (68.1)

〈 〉内は平成17年度

\*結核予防法改正に伴い、「胸部X-P撮影」は学部・大学院とも新入生のみ必須受診項目、他の学年は任意受診項目に変更。

## 平成17年度 保健室利用状況 (H17.4.1～H18.3.31)

月	利用者別		利用内容別					計
	学生	職員	外科系	内科系	健康指導・相談	休養	転送	
4	165	8	18	53	93	9	0	173
5	398	8	10	44	335	16	1	406
6	525	13	24	43	449	22	0	538
7	275	15	11	38	237	4	0	290
8	59	2	4	7	46	4	0	61
9	147	23	27	29	104	10	0	170
10	186	14	15	56	98	31	0	200
11	136	11	17	45	68	16	1	147
12	81	6	5	38	38	6	0	87
1	58	7	8	16	32	9	0	65
2	79	10	5	32	44	7	1	89
3	55	18	3	21	47	1	1	73
計	2,164 (2,023)	135 (108)	147 (211)	422 (390)	1,591 (1,435)	135 (89)	4 (6)	2,299 (2,131)

「外科系」は、ガーゼ交換、湿布交換を含む。

〈 〉内は平成16年度

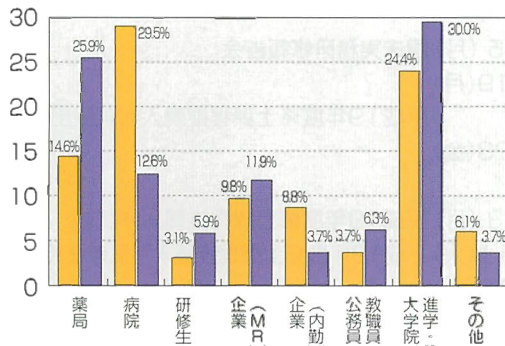
「健康指導・相談」は、健康診断受診証明の発行、検尿、心電図検査、血圧測定、身長・体重測定等を含む。



# 就職課だより

平成17年度卒業生(53期生)の就職状況は、昨年度同様、就職希望者についてはほぼ100.0%でした。53期生の進路希望(3年次生9月就職ガイダンス時)と最終進路(卒業時)について(図1)にまとめてみました。本学就職部委員会・就職課では、就職後の職種のミスマッチを防ぐために、3年次生全員に対する個人面談に加え、希望者を対象とした個人面接に力を注いでいます。

(図1) 平成17年度学部卒業生(53期生) 進路希望と最終進路



※ 53期生 3年次=(平成16年9月16日調査時)/295名  
 ※ 53期生 学部卒業生=進路・就職決定(平成18年3月31日現在)/270名

53期生に対しては、更に3年次生の時から学生自らが熟考して職種決定できるように心掛け、以下の支援をしてまいりました。

1. 就職ガイダンスを27回、学内企業セミナーを2回実施〔薬業関連企業42社,薬局・ドラッグストア 50社参加〕
2. MRインターンシップの実施〔3年次生の8月に実施:16社/31名〕
3. 就職課員による進路決定等に関する個人面接の充実

〔平成17年4月~平成18年3月:計延べ588回、248名の学部学生に実施〕

内訳は(表1)の通りで、就職課員は各職種毎に頻りに学生の相談に応じています。相談内容は進路先決定、企業選定方法、履歴書・エントリーシート記載法、面接の受け方、模擬面接、病院研修生の選考試験、大学院修了後の就職状況など多岐にわたっています。平成17年度卒業生への進路・就職支援業務を振り返ってみますと、就職ガイダンスの充実は勿論ですが、学生一人ひとりとの面接の重要性をあらためて認識しました。これらの方針は学部生だけでなく、(表2)に示すように大学院学生においても実施しています。就職課では、キャリアカウンセラーが常勤し、学生の進路・就職支援業務の質向上、量拡大を図っています。今後も個々の学生が各自の価値観に沿った進路・就職先を決定できるよう支援を強化していきます。

(表1)

平成17年度「学生面談記録(学部)」  
 <平成17年4月1日~平成18年3月31日>

<相談件数>

	男	女	計
面談者数	128	460	588
実数	67	181	248

<学年別>

	男		女		計	
	人数	実数	人数	実数	人数	実数
1年次生	4	4	4	2	8	6
2年次生	3	3	7	6	10	9
3年次生	44	19	240	66	284	85
4年次生	65	35	203	102	268	137
卒業生	12	8	6	6	18	14
計	128	69	460	182	588	251

<相談内容別>

	男		女		計	
	人数	実数	人数	実数	人数	実数
公務員(国家・地方)	21	15	52	34	73	49
薬業関連企業(MR)	49	21	170	34	219	55
薬業関連企業(内勤)	3	3	34	26	37	29
その他企業	4	2			4	2
病院	29	16	90	56	119	72
病院研修生	3	3	23	19	26	22
調剤薬局・ドラッグストア	6	5	58	38	64	43
大学院進学	6	6	20	19	26	25
その他(進路全般)	7	6	13	10	20	16
計	128	77	460	236	588	313

(表2)

平成17年度「学生面談記録(大学院)」  
 <平成17年4月1日~平成18年3月31日>

<相談件数>

	男	女	計
面談者数	70	78	148
実数	32	37	69

<学年別>

	男		女		計	
	人数	実数	人数	実数	人数	実数
M1	57	20	44	17	101	37
M2	9	8	24	15	33	23
D3	1	1	5	1	6	2
卒業生他	3	3	5	4	8	7
計	70	32	78	37	148	69

※「卒業生他」=本学(学部)を卒業し、他大学大学院に進学した者を含む

<相談内容別>

	男		女		計	
	人数	実数	人数	実数	人数	実数
公務員(国家・地方)	8	8	10	7	18	15
薬業関連企業(MR)	10	3			10	3
薬業関連企業(内勤)	44	21	48	29	92	50
病院	6	5	15	11	21	16
病院研修生			1	1	1	1
調剤薬局・ドラッグストア	1	1	4	3	5	4
その他(進路全般)	1	1			1	1
計	70	39	78	51	148	90

# 教務課だより

## 平成18年度 前期行事予定 (学 部)

- 4.4(火)入学式(学部・大学院)  
4.5(水)新入生ガイダンス  
4.6(木)校医講演・新入生健康診断・アドバイザー面談・オープンラボ  
第91回薬剤師国家試験合格者発表(厚生労働省)  
4.7(金)前期授業開始  
健康診断(新入生以外の学生・職員の男子)  
4.11(火)健康診断(新入生以外の学生・職員の女子)  
4.13(木)前期選択科目履修届提出締切(1~3年次生)  
4.17(月)健康診断(新入生以外の学生)
- 5.9(火)創立記念日(休業)  
5.12(金)新入生歓迎会(五月祭)〔午後臨時休講〕  
5.15(月)就職ガイダンス(3年次生)  
5.16(火)薬学総合演習オリエンテーション(4年次生)
- 6.3(土)学友会球技大会  
6.9(金)前期授業終了(4年次生)  
6.15(木)  
〔前期定期試験(4年次生)〕  
6.20(火)  
6.21(水)前期定期試験(4年次生)欠席届提出締切
- 7.3(月)平成19年度大学院修士課程推薦入学試験  
7.11(火)平成19年度大学院修士課程推薦入学試験合格者発表  
7.14(金)前期授業終了(1~3年次生)  
7.18(火)  
〔前期定期試験(1~3年次生)〕  
7.31(月)  
7.29(土)オープンキャンパス(第1回)  
7.30(日)オープンキャンパス(第2回)
- 8.1(火)前期定期試験(1~3年次生)欠席届提出締切  
8.18(金)平成19年度大学院修士課程一般入学試験  
8.19(土)オープンキャンパス(第3回)  
8.25(金)前期再試験受験者発表(4年次生)  
8.29(火)前期再試験受験者発表(1~3年次生)  
平成19年度大学院修士課程一般入学試験合格者発表
- 9.1(金)  
〔前期再試験(4年次生・1~4年次全科目)〕  
9.13(水)9月9日(土)を含む  
9.4(月)  
〔前期再試験(1~3年次生)9月9日(土)を含む〕  
9.13(水)  
9.15(金)後期授業開始(1~3年次生)  
9.22(金)特別再試験受験者発表(4年次生)  
9.25(月)就職ガイダンス(3年次生)

## 平成18年度 前期行事予定 (大学院)

- 4.4(火)入学式  
4.7(金)健康診断  
4.11(火)前期特論開始  
健康診断  
4.17(月)前期特論選択科目履修届提出締切  
健康診断
- 5.9(火)創立記念日(休業)
- 6.5(月)臨床実務研修報告会  
6.19(月)  
〔平成19年度修士課程推薦入学試験出願受付〕  
6.23(金)
- 7.3(月)平成19年度修士課程推薦入学試験  
7.11(火)平成19年度修士課程推薦入学試験合格者発表  
7.18(火)  
〔平成19年度修士課程一般入学試験出願受付〕  
7.28(金)  
7.21(金)前期特論終了
- 8.18(金)平成19年度修士課程一般入学試験  
8.29(火)平成19年度修士課程一般入学試験合格者発表

## 学位授与

### [博 士]

博士(薬学)男子1名 女子1名 合計2名  
(平成18年3月18日付)

### 論博第42号 博士(薬学) 王 越

X-RAY CRYSTALLOGRAPHIC STUDIES ON NOVEL  
TERNARY TRANSITION METAL COMPLEXES OF  
AROMATIC CARBOXYLATES WITH HETEROCYCLIC  
COMPOUNDS  
(新規芳香族カルボン酸-複素環化合物-遷移金  
属三元錯体のX線結晶学的研究)  
(平成18年3月17日付)

### 論博第43号 博士(薬学) 河合 悦子

抗悪性腫瘍薬シスプラチンによる腎毒性発現  
機序に関する研究  
(平成18年3月17日付)

### [修 士]

修士(薬学)男子18名 女子33名 合計51名  
(平成18年3月18日付)

### [学 士]

学士(薬学)薬学科180名 製薬学科90名  
男子83名 女子187名 合計270名  
(平成18年3月18日付)

## 平成17年度 大学院修士課程修了者 修士論文題目

氏名	専攻分野	修士論文題目
* 秋元 庸子	臨床薬学	電解水によるスギ花粉抗原不活性化の検討
安孫子 葵美	生物物理化学	ヒト由来タンパク質合成開始因子eIF4Eと内因性制御因子4EBPサブタイプとの相互作用についての物理化学的研究
池林 里美	生物科学	<i>Vibrio vulnificus</i> M-2799株の鉄過剰および欠乏条件下におけるタンパク質群の網羅的解析
梅本 大輔	分析化学	セレン含有化合物の合成とその生物活性に関する研究
麻植 正子	生物物理化学	ヒトタンパク質合成開始因子(eIF)4AおよびそのN末端、C末端各ドメインとヒトeIF4Gの相互作用について
奥西 美奈	生物科学	海洋細菌 <i>Pseudoalteromonas</i> sp. O-7株のキチン分解系における2成分制御系タンパク質(ArcB/ArcA)の役割
落合 孝允	衛生薬学	植物を用いたカドミウム汚染土壌の環境修復
華 有紀	薬理学	エンドセリン-1 遺伝子発現調節における転写因子NF- $\kappa$ Bの関与
* 勝本 千恵	臨床薬学	クラリスロマイシンのP-糖タンパク質に及ぼす影響に関する研究
川上 有香	臨床薬学	Class I 抗不整脈薬の組み合わせによる心臓に及ぼす影響について
* 川口 博資	臨床薬学	臨床的研究-1: 透析患者における抗MRSA薬の血清中濃度と臨床効果 臨床的研究-2: 血液透析用カテーテル関連血流感染のサーベイランス
北村 彩子	薬理学	培養血管内皮細胞の低酸素暴露に対するエンドセリン-1 産生応答
車塚 大輔	薬理学	頸動脈バルーン傷害モデルにおけるアトルバスタチンの血管保護効果とその性差
小島千ひろ	有機薬科学	17 $\beta$ -HSD1阻害を目的としたE $\alpha$ -イミダゾールハイブリッド化合物の合成
笹井 教子	薬用資源学	蛇床子含有クマリン成分Ostholが脳卒中易発症性高血圧自然発症ラットの血圧ならびに脂質代謝機構に及ぼす影響
下田 綾子	有機薬科学	カルボランを疎水性基質とするH $\alpha$ -アタゴニストの合成研究
白井 雅子	薬理学	シスプラチンの腎蓄積が細胞障害に及ぼす影響とその発現機構
杉山奈穂子	衛生薬学	大腸菌ATP依存性プロテアーゼLonの活性発現調節に関する研究
高野 裕子	薬理学	薬物および一側尿管結紮による腎尿管とその間質障害に対する抗酸化剤の影響
武田 伸弘	薬理学	Tolbutamideの血糖低下効果における日内変動と糖取り込み能との関係
田中 陽子	生物科学	海洋細菌 <i>Pseudoalteromonas</i> sp. O-7株のキチン分解系に関するタンパク質群のプロテオーム解析
玉井佐知子	薬理学	亜鉛によるフリーラジカル性腎細胞障害へのカルシウムおよび細胞内シグナル伝達分子の関与
筒居 秀伸	薬理学	虚血性急性腎不全に対するモキシジンの保護効果について
富士 仁見	臨床薬学	軟骨腫瘍細胞の細胞増殖におけるGABAシステムの役割解明
豊田満知子	臨床薬学	心筋症の発症機構に関与するタンパク質群の相互関係に関する研究
中尾 昌弘	臨床薬学	アルミニウム(III)イオンと薬物の錯生成に関する研究
中筋 千佳	分析化学	シグマレセプター機能診断用放射性薬剤の構造と体内動態相関に関する検討
中田 智子	薬用資源学	カバノアナタケ菌核の産生するLanostane型トリテルペンの構造と化学的がん予防に関する研究
中塚真理也	薬用資源学	カシュウ(何首烏)のステルベン配糖体が高血圧自然発症ラットの脂質代謝に及ぼす影響
中原 良介	臨床薬学	活性酸素種の蛍光プローブの開発に関する研究
* 西村知佐子	薬理学	モルヒネ併用時のetoposide体内動態に関する母集団薬物動態解析
西村美智子	臨床薬学	アデニン及びアデニン関連化合物の分析法の開発に関する研究
野村 芳	有機薬科学	FRETを用いたATPアブタマー変換体によるアデノシンのセンシング
* 長谷川浩平	臨床薬学	基礎的研究: 臨床関連化合物の分析法の開発に関する研究 臨床的研究: コンプライアンスの向上に関する調査研究
長谷川聡司	衛生薬学	ラット腎メサングウム細胞におけるToll-like receptor 9の発現と機能の解析
花登 千明	生物科学	海洋細菌 <i>Pseudoalteromonas</i> sp. O-7株のキチン分解系に関する酵素遺伝子の発現調節タンパク質の探索
樋口 奈菜	生物科学	<i>Acinetobacter baumannii</i> ATCC19606株の培養上清からクォーラムセンシングシグナル物質の単離・同定
藤井 彩	薬理学	腎虚血再灌流障害の病態発症におけるNADPH oxidaseの役割
藤間 一将	分析化学	シグマレセプターを標的とする新規ピペラジン誘導体の合成と癌成長抑制作用の検討
藤森 麻美	有機薬科学	粘土鉱物が触媒するDL-モノヌクレオチドの重合反応の不斉増幅特性に関する研究
前原 達也	薬理学	セリ科植物含有フラノクマリン類による小腸CYP3A阻害に関する研究
松室 圭司	分析化学	EGFR-TK活性を指標とする癌診断用ベンジルアミノキナゾリン誘導体の合成と基礎的検討
水島 史絵	生物物理化学	Tauタンパク質微小管結合部位(MBD)のフィラメント形成能とその構造変化におけるpH及びポリアニオンの影響について
村嶋 照子	分析化学	ホルモン依存性腫瘍の増殖機構-エストロゲン依存性腫瘍モデルと柴朴湯-
保井裕美子	薬用資源学	エゾマツ樹皮のポリフェノール類に関する研究
山下 哲史	臨床薬学	LPSが及ぼす薬物代謝酵素CYPへの影響とNOの関与
山水 康平	薬理学	慢性腎不全に伴う血管機能障害の発症メカニズム
吉川 勝広	衛生薬学	ハムスター心筋梗塞後の心臓リモデリングにおける血漿中銅濃度の重要性
吉田 佑子	分析化学	陽電荷を有する抗癌性白金(II)錯体とDNAとの非共有結合性相互作用
李 哲成	衛生薬学	NS1遺伝子組み換え体インフルエンザウイルスのマウスにおける弱毒化及びそのワクチン効果の研究
渡邊 大哉	生物物理化学	動物性システインプロテアーゼCathepsinBとペプチド特異的阻害剤であるCA化合物との複合体の構造化学的研究

\*印は、臨床薬学コースを示す。

## 平成17年度 大学院博士課程修了者 博士論文題目

氏名	専攻分野	博士論文題目
寺井 志織	衛生薬学	Study on the Regulatory Mechanisms of Expression of SEp22, a Novel Pathogenicity-Related Factor Found in an Environmental Isolate of <i>Salmonella</i> Enteritidis [環境中のサルモネラより見出した新規病原性関連因子SEp22の発現調節機構の研究]
中野 大介	薬理学	ゴマ由来成分の抗高血圧作用に関する研究

平成18年度 大学院薬学研究科博士後期課程  
(博士課程) 入学試験結果

募集人員 5名

出願期間 平成18年1月20日(金)～1月27日(金)

学力試験 平成18年2月7日(火)

- ・ 外国語(英語)の筆記試験
- ・ 専攻分野および修士論文を中心とする口述試験  
(ただし、場合により筆記試験)
- ・ 面接

合格発表 平成18年2月17日(金)

志願者 1名〔男子1名、女子0名〕

受験者 1名〔男子1名、女子0名〕

合格者 1名〔男子1名、女子0名〕

入学者 1名〔男子1名、女子0名〕



緊急連絡掲示板を開設しました

平成18年1月より、本学ホームページ上に緊急連絡掲示板を開設しました。大雪や事故などにより交通機関に乱れがあった場合などの緊急時に、講義や試験の対応に関する情報をお知らせします。

また、携帯電話対応のホームページも開設されましたので、携帯電話にアドレスをブックマークしておけば、通学途中でも情報を得ることができますので便利です。

なお、この掲示板は緊急用ですので、通常の連絡事項は講義・実習棟の各年次の掲示板で確認してください。



ホームページアドレス

<http://www.oups.ac.jp/>

←携帯電話でのアドレス

<http://www.oups.ac.jp/m/>

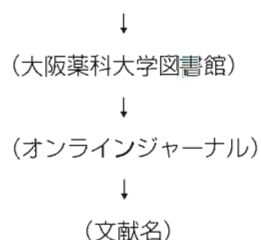
## 図書課だより

### ○電子ジャーナル・コンソーシアムについて

本学ホームページからの学術和洋雑誌の電子ジャーナル利用可能数は、昨年までは40数誌程度でしたが、今年からは208誌に増え、大変便利になりました。

これは、本学が昨年末に Wiley InterScience のコンソーシアム(日本薬学図書館協議会・日本医学図書館協会加盟館が共同でWiley社と契約をして利用できるようになった電子ジャーナル群の利用組織)に参加したことにより、166誌の電子ジャーナルのフルテキストが利用可能となったものです。大いにご活用ください。

アクセスの方法：(大阪薬科大学ホームページ)



### ○1982年(昭和57年)以前の大阪薬科大学研究業績集について

従来から、毎年、研究業績集の製本を行ってまいりましたが、1982年(昭和57年)以前については、1976年を除いて作成されておりませんでした。

この度、1956年から1982年までの研究業績を収集したところ、384件の論文を集めることができました。これを、3冊の業績集として取りまとめ、写真のように出来上がりました。

図書館3階第1閲覧室に所蔵しておりますので、ご利用ください。



## 教員研究業績 (2005年)

(2005.1.1~12.31)

## 1. 研究学術論文

著 者	題 目	掲 載 誌
荒木理佐, 春沢信哉, 山口真帆, 米澤 登, 谷口奈津美, 栗原拓史, 他	Synthesis of novel C4-linked imidazole ribonucleoside phosphoramidites for probing general acid and base catalysis in ribozyme	<i>Tetrahedron</i> , 61, 11976-11985(2005)
藤嶽美穂代, 春沢信哉, 荒木理佐, 山口真帆, 栗原拓史, 他	Accurate molecular weight measurements of nucleoside phosphoramidites: a suitable matrix of mass spectrometry	<i>Tetrahedron</i> , 61, 4689-4699(2005)
春沢信哉, 荒木理佐, 山口真帆, 栗原拓史, 他	Nucleobase participation in ribozyme catalysis	<i>J. Am. Chem. Soc.</i> , 127, 5026-5027 (2005)
宇佐美吉英, 上田恭子	Synthetic study toward antitumour natural product pericosine A	<i>Chemistry Letters</i> , 34, 1062-1063 (2005)
市川隼人, 宇佐美吉英, 有本正生	Synthesis of novel organoselenium as catalyst for Baeyer-Villiger oxidation with 30% H <sub>2</sub> O <sub>2</sub>	<i>Tetrahedron Letters</i> , 46, 8665-8668 (2005)
浦田秀仁, 佐々木理絵, 森田浩世, 橋本真理奈, 小川陽子, 光田 梢, 赤木昌夫	Kinetic analysis of hydrolytic reaction of homo- and heterochiral adenylyl(3'-5')adenosine isomers: breaking homochirality reduces hydrolytic stability of RNA.	<i>Chem. Commun.</i> , 2578-2580(2005)
浦田秀仁, 他	Chiral selection in oligoadenylate formation in the presence of a metal ion catalyst or poly(U) template.	<i>Origins of Life Evol. Biosphere</i> , 35, 213-223(2005)
浦田秀仁, 原 尚文, 平田好宏, 応本憲彦, 赤木昌夫	Synthesis and structural characterization of diastereomeric isomers of RNA trimer adenylyl(3'-5')adenylyl(3'-5')adenosine.	<i>Tetrahedron Asymmetry</i> , 16, 2908- 2917(2005)
芝野真喜雄, 谷口雅彦, 馬場きみ江, 他	Melanogenesis stimulation in murine B16 melanoma cell by umbriherae plant extracts and their coumarin constituents	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> , 28(7), 1229-1233 (2005)
谷口雅彦, 横山 修, 芝野真喜雄, 馬場きみ江, 他	Four coumarins from <i>Heracleum yunnanngense</i>	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> , 53(6), 701-704 (2005)
大野真美, 馬場きみ江, 他	Hypotensive and lipid regulatory actions of 4-hydroxyderricin, a chalcone from <i>Angelica keiskei</i> , in stroke-prone spontaneously hypertensive rats	<i>Clin. Exp. Pharmacol. Physiol.</i> , 32, 19-23(2005)
中村 玲, 馬場きみ江, 他	Beneficial effect of laserpitin, a coumarin compound from <i>Angelica keiskei</i> , on lipid metabolism in stroke-prone spontaneously hypertensive rats	<i>Clin. Exp. Pharmacol. Physiol.</i> , 32, 1104-1109(2005)
芝野真喜雄, 奥野綾子, 谷口雅彦, 馬場きみ江, 他	Bisabolane-type sesquiterpenes: liginvolones A-D from <i>Ligusticum involucreatum</i>	<i>Nat. Prod.</i> , 68(10), 1445-1449(2005)
谷口雅彦, 馬場きみ江, 他	The structures of eicosapentaenoic acid (EPA) derivatives formed during accelerated stability testing of EPA ethylester	<i>J. Trad. Med.</i> , 22(4), 222-227(2005)
和田俊一, 田中麗子	Synthetic lanostane-type triterpenoids as inhibitors of DNA topoisomerase II	<i>Bioorg. &amp; Med. Chem., Letters</i> , 5, 2966-2969(2005)
和田俊一, 田中麗子	Betulinic acid and its derivatives, potent DNA topoisomerase II inhibitors, from the bark of <i>Bischofia javanica</i>	<i>Chem. &amp; Biodiv.</i> , 2, 689-694(2005)
福田優子, 酒井邦佳, 松永春洋, 田中麗子, 他	Cancer chemopreventive activity of lupane- and oleanane-type triterpenoids from the cones of <i>Liquidamber styraciflua</i>	<i>Chem. &amp; Biodiv.</i> , 2, 421-428(2005)
山田剛司, 土井光暢, 三浦阿津子, 原田和佳, 平村由香, 箕浦克彦, 田中麗子, 沼田 敦	Absolute stereostructures of cell-adhesion inhibitors, peribysins A, E, F and G, produced by a sea hare-derived <i>Periconia</i> sp.	<i>J. Antibiotics</i> , 58(3), 185-191(2005)

著 者	題 目	掲 載 誌
箕浦克彦, 水島史絵, 時政真理, 平岡周子, 友尾幸司, 石田寿昌, 他	Structural evaluation of conformational transition state responsible for self-assembly of tau microtubule-binding domain	<i>Biochem. Biophys. Res. Commun.</i> , 327, 1100-1104(2005)
箕浦克彦, 水島史絵, 時政真理, 平岡周子, 友尾幸司, 石田寿昌, 他	Solvent-dependent conformational change of third repeat fragment of microtubule-binding domain responsible for filament formation of tau protein	<i>Peptide Science.</i> , 2004, 545-548 (2005)
友尾幸司, 松下泰昇, 藤崎裕行, 安孫子芙美, Xu Shen, 石田寿昌, 他	Structural basis for mRNA cap-binding regulation of eukaryotic initiation factor 4E by 4E-binding protein, studied by spectroscopic, X-ray crystal structural, and molecular dynamics simulation methods	<i>Biochim. Biophys. Acta.</i> , 1753, 191-208(2005)
尹 康子, 友尾幸司, 石田寿昌, 他	Cell adhesion inhibitory activity of (d)-corynoline, a hexahydrobenzo[c]phenanthridine-type alkaloid, and its structure-activity relationship, studied by X-ray crystal structure analysis and molecular docking study	<i>Bioorg. Med. Chem.</i> , 13, 1867-1872 (2005)
尹 康子, 箕浦克彦, 友尾幸司, 石田寿昌, 他	Structural function of C-terminal amidation of endomorphin: Conformational comparison of $\mu$ -selective endomorphin-2 with its C-terminal free acid, studied by <sup>1</sup> H-NMR spectroscopy, molecular calculation, and X-ray crystallography	<i>FEBS Journal</i> , 272, 5079-5097 (2005)
平岡周子, 友尾幸司, 箕浦克彦, 石田寿昌, 他	Effects of different anti-tau antibodies on tau fibrillogenesis: RTA-1 and RTA-2 counteract tau aggregation	<i>FEBS Lett.</i> , 579, 1399-1404(2005)
時政真理, 箕浦克彦, 平岡周子, 友尾幸司, 石田寿昌	Importance of local structures of second and third repeat fragments of microtubule-binding domain for tau filament formation	<i>FEBS Lett.</i> , 579, 3481-3486(2005)
尹 康子, 石田寿昌, 他	Absolute configuration of TPU-0043, a pentaene macrolide from <i>Streptomyces</i> sp.	<i>J. Antibiot.</i> , 58, 523-525(2005)
友尾幸司, Tian-Ming Yao, 箕浦克彦, 平岡周子, 石田寿昌	Possible role of each repeat structure of the microtubule-binding domain of the tau protein in <i>in vitro</i> aggregation	<i>J. Biochem.</i> , 138, 413-423(2005)
尹 康子, 石田寿昌, 他	Orally active antioxidative copper (II) aspirinate: synthesis, structure characterization, superoxide scavenging activity, and <i>in vitro</i> and <i>in vivo</i> antioxidative evaluations	<i>J. Biol. Inorg. Chem.</i> , 10, 831-841 (2005)
尹 康子, 石田寿昌, 他	The structural information of the quaternary ammonium salts derived from nicotine and sparteine in the solid state	<i>Heterocycles</i> , 66, 667-674(2005)
尹 康子, 箕浦克彦, 石田寿昌	Conformational comparison of $\mu$ -selective endomorphin-2 with its C-terminal free acid, studied by <sup>1</sup> H-NMR spectroscopy and X-ray structure analysis	<i>Peptide Science</i> , 2004, 427-430(2005)
小林祐次, 他	Cloning, expression, crystallization and preliminary X-ray characterization of cytochrome <i>c</i> <sub>552</sub> from a moderate thermophilic bacterium, <i>Hydrogenophilus thermoluteolus</i>	<i>Acta Cryst.</i> , F61, 395-398(2005)
小林祐次, 他	Crystallization and preliminary X-ray crystallographic analysis of a conserved domain in plants and prokaryotes from <i>Pyrococcus horikoshii</i> OT3	<i>Acta Cryst.</i> , F61, 414-416(2005)
西 義則, 小林祐次, 他	Different effects of 4-hydroxyproline and 4-fluoroproline on the stability of collagen triple helix	<i>Biochemistry</i> , 44, 6034-6042(2005)
小林祐次, 他	Structural and functional study of an <i>Anemonia</i> elastase inhibitor, a "nonclassical" Kazal-type inhibitor from <i>Anemonia sulcata</i>	<i>Biochemistry</i> , 44, 9626-9636(2005)

著者	題目	掲載誌
西 義則, 小林祐次, 他	Effect of hydration on the stability of the collagen-like triple-helical structure of [4( <i>R</i> )-hydroxyprolyl-4( <i>R</i> )-hydroxyprolylglycine] <sub>10</sub>	<i>Biochemistry</i> , 44, 15812-15822(2005)
小林祐次, 他	X-ray crystallography study on ribosome recycling: the mechanism of binding and action of RRF on the 50S ribosomal subunit	<i>EMBO J.</i> , 24, 251-260(2005)
小林祐次, 他	Five amino acid residues responsible for the high stability of <i>Hydrogenobacter thermophilus</i> cytochrome <i>c</i> <sub>552</sub>	<i>J. Biol. Chem.</i> , 280, 5527-5532(2005)
小林祐次, 他	Solution NMR structure investigation for releasing mechanism of neocarzinostatin chromophore from the holoprotein	<i>J. Biol. Chem.</i> , 280, 11340-11346(2005)
西 義則, 小林祐次, 他	Collagen-like triple helix formation of synthetic (Pro-Pro-Gly) <sub>10</sub> analogues: (4( <i>S</i> )-hydroxyprolyl-4( <i>R</i> )-hydroxyprolyl-Gly) <sub>10</sub> , (4( <i>R</i> )-hydroxyprolyl-4( <i>R</i> )-hydroxyprolyl-Gly) <sub>10</sub> and (4( <i>S</i> )-fluoroprolyl-4( <i>R</i> )-fluoroprolyl-Gly) <sub>10</sub>	<i>J. Pept. Sci.</i> , 11, 609-616(2005)
西 義則, 小林祐次, 他	Effects of proline substitution on the thermal stability and hydration of collagen triple helix	<i>Peptide Science 2004</i> , 479-482 (2005)
土井光暢, 中元安雄, 浅野晶子	Cytosine-containing hybrid dipeptides: N-[2-(4-amino-2-oxo-1,2-dihydropyrimidin-1-yl)propionyl]-L-phenylalanine N-[2-(4-amino-2-oxo-1,2-dihydropyrimidin-1-yl)propionyl]-L-serine monohydrate and N-[2-(4-amino-2-oxo-1,2-dihydropyrimidin-1-yl)propionyl]-L-lysine.	<i>Acta Cryst.</i> , C61, o577-o582(2005)
土井光暢, 他	Side-chain chiral centers of amino acid and helical-screw handedness of its peptides.	<i>J. Am. Chem. Soc.</i> , 127, 11570-11571 (2005)
土井光暢, 浅野晶子, 吉田寛幸, 岩永一範, 山本大助, 他	Structure and property of self-assemble valinyl bolaform amides having different chirality.	<i>J. Peptide Res.</i> , 66, 181-189(2005)
齋藤睦弘, 梅本大輔, 木寺康裕, 佐藤卓史, 千熊正彦	DPPH radical scavenging activity of selenocompounds : importance of selenium	<i>Biomed. Res. Trace Elements</i> , 16, 332-335(2005)
木村捷二郎, 他	Oxidized Tritium around a Research Reactor Site	<i>J. Nucl. Sci. and Tech.</i> , 42, 816-824 (2005)
山沖留美, 佐々木智世, 石井里枝, 岡部 瞳, 木村捷二郎, 他	電子線照射した黒胡椒の殺菌効果とESR法による有機フリーラジカルの検出	<i>RADIOISOTOPES</i> , 54, 365-373(2005)
藤井 忍, 伊藤礼美, 吉田亜由美, 東 聡子, 池田 潔, 他	Activation of sphingomyelinase from <i>Bacillus cereus</i> by Zn <sup>2+</sup> hitherto accepted as a strong inhibitor	<i>Arch. Biochem. Biophys.</i> , 436, 227-236(2005)
藤井 忍, 森田倫生, 池田 潔, 他	Synthesis of sphingomyelin sulfur analogue and its behavior toward sphingomyelinase	<i>Bioorg. Med. Chem. Letters</i> , 15, 2141-2144(2005)
奥村幸治, 大野 愛, 西田正範, 林 恭三, 池田 潔, 井上晴嗣	Mapping the region of the $\alpha$ -type phospholipase A <sub>2</sub> inhibitor responsible for its inhibitory activity	<i>J. Biol. Chem.</i> , 280, 37651-37659 (2005)
豊元 操, 井上晴嗣, 林 恭三, 池田 潔, 他	Production of NGF, BDNF and GDNF in mouse astrocyte cultures is strongly enhanced by a cerebral vasodilator, ifenprodil	<i>Neurosci. Letters</i> , 379, 185-189 (2005)
折越英介, 中山恵成, 宮本勝城, 花登千明, 安田正秀, 稲森善彦, 辻坊 裕	The roles of four chitinases (ChiA, ChiB, ChiC, and ChiD) in chitin degradation system of a marine bacterium, <i>Alteromonas</i> sp. strain O-7	<i>Appl. Environ. Microbiol.</i> , 71, 1811-1815(2005)

著者	題目	掲載誌
折越英介, 中山恵成, 花登千明, 宮本勝城, 辻坊 裕	Role of the N-terminal polycystic kidney disease domain in chitin degradation by chitinase A from a marine bacterium, <i>Alteromonas</i> sp. strain O-7	<i>J. Appl. Microbiol.</i> , 99, 551-557(2005)
寺井志織, 天野富美夫, 他	Expression and degradation of SEp22, a pathogenicity - related protein of <i>Salmonella</i> Dps, in <i>Salmonella</i> enterica serovar enteritidis isolated from the poultry farms in Japan.	<i>Biosci. Microflora</i> , 24, 113-118(2005)
天野富美夫, 炭岡孝志, 寺井志織	病原性関連因子SEp22を発現するサルモネラ環境分離株の接着因子について.	<i>Bacterial Adherence &amp; Biofilm</i> , 19, 39-45(2005)
藤本陽子, 宇佐久美子, 佐久間寛	Effects of endocrine disruptors on the formation of prostaglandin and arachidonoyl-CoA formed from arachidonic acid in rabbit kidney medulla microsomes	<i>Prostaglandins Leukot. Essent. Fatty Acids</i> , 73, 447-452(2005)
藤本陽子, 大塚昌平, 宮下英之, 佐久間寛	Effect of tetrahydrobiopterin on copper-mediated DNA oxidation: its prooxidant property	<i>J. Clin. Biochem. Nutr.</i> , 36, 51-57(2005)
三野芳紀, 湯北真由美, 他	Amino acid sequences of ferredoxins from <i>Atropa belladonna</i> and <i>Hyoscyamus niger</i> : Their similarities to those in other tropane-alkaloid-containing plants	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> , 28, 1535-1538 (2005)
吉川勝広, 三野芳紀, 他	Role of chymase-dependent angiotensin II formation in regulating blood pressure in spontaneously hypertensive rats	<i>Hypertens. Res.</i> , 28, 457-464(2005)
吉川勝広, 三野芳紀, 他	Significance of angiotensin II receptor blocker lipophilicities and their protective effect against vascular remodeling	<i>Hypertens. Res.</i> , 28, 593-600(2005)
三野芳紀, 湯北真由美	Detection of high levels of bromine in vegetables using X-ray fluorescence spectrometry	<i>J. Health Sci.</i> , 51, 365-368(2005)
三野芳紀, 他	Detection of high levels of arsenic and mercury in some Chinese traditional medicines using X-ray fluorescence spectrometry	<i>J. Health Sci.</i> , 51, 607-613(2005)
三野芳紀, 町田裕治, 他	Protein chemotaxonomy. X II. amino acid sequence of ferredoxin from <i>Pueraria lobata</i>	<i>Natural Med.</i> , 59, 181-185(2005)
宮崎 誠, 星野尚也, 隋 廣, 武田伸弘, 岩永一範, 掛見正郎	サケカルシトニンのPharmacokinetics-Pharmacodynamicsに及ぼす日周リズムの影響	TDM研究, 22, 40-47(2005)
西野隆雄, 他	Anti-diarrheal effects of wood creosote pill preparation compounded with four crude drugs on castor oil-induced diarrhea in rats and the role of crude drugs in the expression of the efficacy	<i>J. Trad. Med.</i> , 22, 284-289(2005)
幸田祐佳, 河合悦子, 岩本憲明, 松永佳子, 相賀広美, 玄番宗一, 他	Serum thymic factor, FTS, attenuates cisplatin nephrotoxicity by suppressing cisplatin-induced ERK activation	<i>Biochem. Pharmacol.</i> , 70(9), 1408-1416(2005)
幸田祐佳, 松永佳子, 余野木克哉, 河合悦子, 玄番宗一, 他	Protective effect of serum thymic factor, FTS, on cephaloridine-induced nephrotoxicity in rats	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> , 28(11), 2087-2091(2005)
河合悦子, 谷内三郎, 岡原茂喜, 中村益久, 玄番宗一	Relationship between cisplatin or nedaplatin-induced nephrotoxicity and renal accumulation	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> , 28(8), 1385-1388 (2005)
幸田祐佳, 玄番宗一	Cephaloridine induces translocation of PKC $\delta$ into mitochondria and enhances mitochondrial generation of free radicals in the kidney cortex of rats causing renal dysfunction	<i>J. Pharmacol. Sci.</i> , 98(1), 49-57 (2005)
松永佳子, 河合悦子, 幸田祐佳, 玄番宗一	Involvement of activation of NADPH oxidase and extracellular signal-regulated kinase (ERK) in renal cell injury induced by zinc	<i>J. Toxicol. Sci.</i> , 30(2), 135-144(2005)



著者	題目	掲載誌
河合悦子, 幸田祐佳, 古儀孝明, 玄番宗一	Protective effect of a protein kinase inhibitor on cellular injury induced by cephaloridine in the porcine kidney cell line LLC-PK 1	<i>J. Toxicol. Sci.</i> , 30(3), 157-163(2005)
佐々木孝則, 寺野由剛, 玄番宗一, 他	Establishment of highly specific and quantitative immunoassay systems for staphylococcal enterotoxin A, B, and C using newly-developed monoclonal antibodies	<i>Microbiol. Immunol.</i> , 49(7), 589-597 (2005)
藤井俊秀, 高岡昌徳, 松村靖夫, 他	Dietary supplementation of L-carnosine prevents ischemia/reperfusion-induced renal injury in rats	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> , 28, 361-363(2005)
杉井真人, 大喜多守, 谷口雅彦, 馬場さみ江, 河合 俊, 田原知代子, 高岡昌徳, 松村靖夫	Xanthoangelol D isolated from the roots of <i>Angelica keiskei</i> inhibits endothelin-1 production through the suppression of nuclear factor- $\kappa$ (カッパー)B	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> , 28, 607-610(2005)
藤井俊秀, 高岡昌徳, 大喜多守, 松村靖夫	Tempol protects against ischemic acute renal failure by inhibiting renal noradrenaline overflow and endothelin-1 overproduction	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> , 28, 641-645(2005)
大喜多守, 中島淳志, 上田恭子, 高岡昌徳, 松村靖夫, 他	Preventive effect of flavangenol on ischemia/reperfusion-induced acute renal failure in rats	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> , 28, 1655-1657 (2005)
山本 諭, 松本典子, 金澤充雄, 藤田真理絵, 高岡昌徳, 松村靖夫, 他	Different contributions of endothelin-A and endothelin-B receptors in postischemic cardiac dysfunction and norepinephrine overflow in rat hearts	<i>Circulation</i> , 111, 302-309(2005)
西田昌広, 家島美幸, 江城佳子, 秋吉賢志, 高岡昌徳, 松村靖夫, 他	Selective endothelin ET(B)receptor antagonist improves left ventricular function but exaggerates degeneration of cardiomyocytes in J2N-k hamsters	<i>Circulation J.</i> , 69, 107-113(2005)
大喜多守, 松村靖夫, 他	Mechanisms of combined treatment with celiprolol and candesartan for ventricular remodeling in experimental heart failure	<i>Circulation J.</i> , 69, 596-602(2005)
倉田隼人, 高岡昌徳, 久保康宏, 片山智章, 筒居秀伸, 高山淳二, 大喜多守, 松村靖夫	Protective effect of nitric oxide on ischemia/reperfusion-induced renal injury and endothelin-1 overproduction	<i>Eur. J. Pharmacol.</i> , 517, 232-239 (2005)
中野大介, 田澤尚子, 山下知佳, 松村靖夫, 他	Chronic hypoxia accelerates the progression of atherosclerosis in apolipoprotein E-knockout mice	<i>Hypertension Res.</i> , 28, 837-845 (2005)
山岨 弘, 清水智子, 井上孝夫, 高岡昌徳, 松村靖夫	Endothelial nitric oxide contributes to the renal protective effects of ischemic preconditioning	<i>J. Pharmacol. Exp. Ther.</i> , 312, 153-159(2005)
田中一彦, 他	Prediction of efficacy of interferon treatment of chronic hepatitis C and occurrence of HCC after interferon treatment by a new classification	<i>Intervirology</i> , 48, 52-58(2005)
鶴島佐知子, 石井史絵, 田中一彦, 他	Interferon- $\beta$ induction/interferon- $\alpha$ 2B plus ribavirin therapy in patients with chronic hepatitis C	<i>Int. J. Clin. Pharm. Res.</i> , 25, 71-76 (2005)
浦嶋和也, 井尻好雄, 寺井志織, 川上有香, 西堀崇子, 廣谷芳彦, 田中一彦, 他	Differential stereoselective effects of levobupivacaine, bupivacaine and dexbupivacaine on the heart in isolated rat hearts	<i>Circ. Cont.</i> , 26, 140-147,(2005)
志目由華, 廣谷芳彦, 秋元庸子, 真藤京子, 井尻好雄, 西堀崇子, 田中一彦	Protective effects of capsaicin against cisplatin-induced nephrotoxicity in rats	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> , 28, 1635-1638 (2005)

著者	題目	書名または掲載誌 (出版社)
富士仁見, 田中一彦, 他	HUVECにおけるGABAB受容体を介した細胞移動に関する研究	解剖誌, 80, 65-66(2005)
吉岡真佐恵, 田中一彦, 他	塩酸バンコマイシンにより汎血球減少症をきたした骨髄炎の1症例	TDM研究, 22, 22-26(2005)
西原 舞, 田中一彦, 他	血液透析患者における虚血性腸炎の発症因子に関する検討	透析会誌, 38, 1279-1283(2005)
津倉由里, 田中一彦, 他	京都桂病院における「処方支援」の取り組み—がん対応医療への参画と新人薬剤師臨床教育—	医療薬学, 31, 794-801(2005)
藤本 剛, 土井光暢, 田部三沙, 山口敬子, 藤田芳一	Crystal structure of N,N'-diethyl-N,N'-[[4,4'-dihydroxy-1,1'-binaphthalene]-3,3'-diyl]bisbenzamide	Anal. Sci., 21(6), x107-108(2005)
山口敬子, 天野絵美, 神野伸一郎, 梅原聡子, 矢内原千鶴子, 藤田芳一	Spectrophotometric determination of urinary protein with o-sulphonylfluorone-metal complex	Anal. Sci., 21(10), 1237-1240(2005)
神野伸一郎, 山口敬子, 森 照美, 宮本美香, 楠見幸美, 藤田芳一	Spectrophotometric determination of aluminum with m-carboxyphenylfluorone, a novel chemical probe, and its application	Anal. Sci., 21(12), 1549-1552(2005)
藤田芳一, 他	随時尿をもちいた試験紙法による蛋白/クレアチニン比の有用性について	臨床病理, 53(9), 810-817(2005)
西村美智子, 中島 桂, 山口敬子, 藤田芳一	エオシン銀と(1)を用いるアデニン及び関連化合物の定量	分析化学, 54(9), 761-765(2005)
楠瀬健昭	科学と詩 —ホプキンスの二つの小品—	とい, XXIV, 1-4(2005)
土井 勝, 他	New parameterization in muon decay and the type of emitted neutrino	Prog. Theor. Phys., 114, 845-871(2005)
松島哲久	治験の倫理 —患者の権利は守られるか	文部科学省科研費補助金研究成果公開講座「医学研究はどうあるべきか」資料集, 53-63(2005)
松島哲久	臨床医学とケアの倫理	理想, 675, 59-69(2005)

## 2. 総説・解説

著者	題目	書名または掲載誌 (出版社)
岩永一範	脂質分散系製剤を用いた難溶性薬物の吸収改善とその評価	PHARMSTAGE, 4, 19-24(2005)
松村靖夫	次世代の薬理学基礎研究を担う大学院生をいかに確保し育てるか—私立薬科大学の悩みと苦しみ—	日本薬理学雑誌, 126, 161(2005)
富士仁見, 阪上久美子, 田中一彦, 他	GABAシステムと循環	循環制御, 26, 222-230(2005)
廣谷芳彦, 田中一彦	服薬指導を行う薬剤師	ハートナーシング, 18, 941-946(2005)
藤田芳一	尿中アルブミンは正確に測定できるのか?	ぶんせき, 2005(6), 320(2005)
藤田芳一	薬学教育6年制とチーム教育、オーダーメイド教育	大阪府薬雑誌, 56(10), 5-6(2005)
中元安雄	コミュニティ・ファーマシーとしての機能を強化してより有意義な実習・研修を実践したい	Community Pharmacy, 18, No4(2005)
中元安雄	常用医薬品情報集	医療薬学研究会(2005)

## 3. 特許

出願者	題 目	特許番号
春沢信哉, 栗原拓史, 他	Production of imidazole derivatives and novel intermediates of the derivatives.	米国特許: US 6, 951, 944(2005)
春沢信哉, 米田龍司, 栗原拓史, 他	オキサゼピノピリドインドール誘導体及びその製造方法	日本特許: 第3749275号(2005)

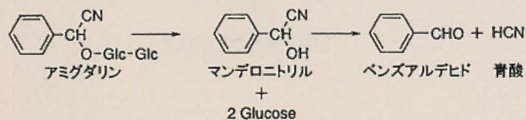
## 4. 著書

著 者	題 目	出 版 社
馬場きみ江, 他	食品薬学ハンドブック	講談社サイエンティフィック(2005)
齊藤睦弘, 千熊正彦, 他	生命科学のための無機化学・錯体化学, 第5章 典型元素の化学, 第6章 遷移元素の化学, 第7章 錯体の化学	廣川書店(2005)
米田誠治, 千熊正彦	<i>Metal Compounds in Cancer Chemotherapy. Interactions of polynuclear platinum (II) complexes with DNA</i>	<i>Research Signpost</i> (2005)
天野富美夫	石井秀実編, 「衛生薬学」 疾病の予防と対策.	朝倉書店(2005)
掛見正郎, 田中一彦, 西野隆雄	薬学教育協議会, 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構編 「薬学生のための病院・薬局実務実習テキスト 2005年版」	じほう社(2005)
掛見正郎, 他	辻彰編, 「薬剤師のための 常用医薬品情報集 2005年版」	廣川書店(2005)
掛見正郎, 他	乾 賢一, 奥村勝彦 編, 「医療薬学 第4版」 第7章, 薬物血漿濃度モニタリング (TDM)	廣川書店(2005)
岩永一範, 他	リボソーム応用の新展開 ～人工細胞の開発に向けて～, P612-617	エヌティーエス(2005)
藤田芳一, 他	機器分析の事典	朝倉書店(2005)
馬場きみ江	日本薬学会編, 化学系薬学Ⅲ, 自然が生み出す薬物, P45-51	東京化学同人(2005)
石田寿昌	日本薬学会編, 物理系薬学Ⅰ, 物質の物理的性質, P122-132	東京化学同人(2005)
千熊正彦	日本薬学会編, 物理系薬学Ⅱ, 化学物質の分析, P28-29	東京化学同人(2005)
辻坊 裕	日本薬学会編, 生物系薬学Ⅰ, 生命体の成り立ち, P204-216	東京化学同人(2005)
高岡昌徳	日本薬学会編, 生物系薬学Ⅰ, 生命体の成り立ち, P60-65	東京化学同人(2005)
掛見正郎	日本薬学会編, ヒューマニズム・薬学入門, P279-287	東京化学同人(2005)
土井 勝	物理学入門	日科技連出版社(2005)

薬用植物の紹介

アンズ *Prunus armeniaca* var. *ansu*

アンズ（バラ科）は中国の遼寧、内蒙、河北、山西から寧夏あたりが原産とされ、現在は世界各地で栽培されており、日本でも長野、山梨、北海道などで、果樹として栽培されている。栽培には冷涼で生育期間中、比較的乾燥した地帯を好む。樹高は5m程度で、樹皮は堅く、葉は互生、卵円形あるいは広楕円形で先端が尖っている。春に葉より先に淡紅色5弁の花をつける。アンズは、より葉が大きいホンアンズ *Prunus armeniaca* の変種にあたる。ホンアンズも中国原産で、長江以北の東北から新疆に至る広い地域で野生または果樹として栽培されている。アンズには果樹園芸用に改良された品種が多くあり、主にジャムなどの加工食品として用いられている。初夏に成熟した果実を収穫し、果肉を取り除き、核果を取り出す。真夏の間そのままにしておき、種子を核内で自然乾燥させた後、核を割り、内部の種子を取り出す。この種子が生薬の杏仁(きょうにん)である。やや偏圧した左右不均衡な卵形～広卵形をしており、長径は1～2cmで、一端は尖り、他の一端は丸みを帯びている。種皮は薄く赤褐色で、合点から多数の維管束が縦走し、その部分がくぼんでいる。ほとんど無臭であるが、乳鉢などで碎くとベンズアルデヒドのにおい（中華料理の杏仁豆腐のにおい）がする。一般に大型で色が白いものが良品とされる。杏仁は薬用とされる苦杏仁（苦い）と、もっぱら食用にされる甜杏仁（甘い）に区別されている。この苦味の本体は青酸配糖体のアミグダリンで、苦杏仁には約3%含まれている。アミグダリンは共存する酵素エムルシンによって、加水分解を受けマンデロニトリルとなるが、不安定なため、直ちに青酸とベンズアルデヒドに分解され、独特の香りを発するのである。この反応は、以前は局方の杏仁の確認試験に適用されていたが、現在は多くの生薬の場合と同様に、薄層ク



アンズ

ロマトグラフィ(TLC)法によるアミグダリンの検出が行われている。しかしこの検出法はあまり鮮明でない。

杏仁は喘咳、呼吸困難、浮腫などに応用されており、鎮咳・去痰作用の本体はマンデロニトリルであると考えられている。しかし、その作用機序はまだ明らかではない。鎮咳作用は、杏仁を甘草とともに用いることで増強され、また水製エキスは気管支平滑筋のヒスタミンによる収縮を抑制し、エフェドリンによる弛緩反応を増強する。さらに、アミグダリンの分解で生じる青酸は微量で呼吸中枢を刺激する。漢方では杏蘇散、麻黄湯、麻杏甘石湯、清肺湯などの処方に配合されている。

アンズと同属のモモ *P.persica* も中国原産とされ、この種子が生薬の桃仁(とうにん)である。桃仁は扁平でやや左右不均等な長径1.2～2cmの卵円形あるいは楕円形をしており、アーモンドナッツに似ている。杏仁に比して一般により扁平であるが、区別し難いものもあり、学生が生薬の確認試験の際に苦勞するところである。成分は杏仁と同じ青酸配糖体のアミグダリンと多くの脂肪油が知られるのみで、この両者の間には大きな差はない。しかしながら、古来の治療例から消炎性駆瘀血薬とみなされてきた。桃仁には抗炎症、鎮痛作用が証明されているが、現在でも両者間で、明確な作用の差を説明できるまでには至っていない。桃仁は瘀血を除き、血行を促進する目的で配合されており、その代表的な処方には桂枝茯苓丸、桃核承気湯、大黃牡丹皮湯などがある。



モモ

(薬用植物園長 馬場 きみ江)

発行  
大阪薬科大学広報委員会

〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原4-20-1  
TEL (072) 690-1019(入試・広報課)  
FAX (072) 690-1018( // )  
URL <http://www.oups.ac.jp/>